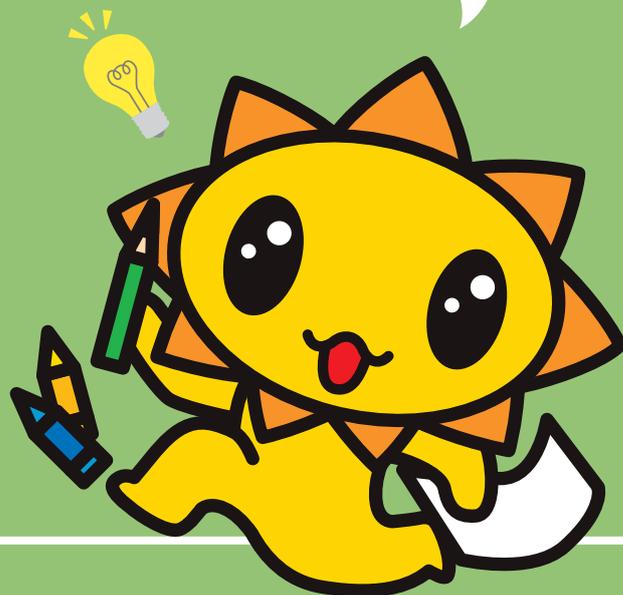


令和3年度  
入賞  
作品集

「少年の主張」  
中学生話し方大会

「家庭の日」に  
関する作文・図画



# 青少年育成の基本指針

(昭和 52 年 6 月 1 日 青少年育成広島県民会議制定)

## 前 文

「青少年は日本の希望である」という言葉は、われわれの心を支えている標語である。ところが、青少年の非行が問題になると、明確な実施効果の見定めもつかぬままに、条例や法律の制定に期待の高まるのが実状である。しかし、青少年の非行が大人の生活の反映であるとすれば、青少年の健全育成は、大人の反省なしには実現しないであろう。大人がかつて青少年であったように、青少年はやがて大人になるのである。人間の生涯は、多様な価値観の個性的選択による自己教育の連続であるといえよう。

ここに制定された青少年育成の基本指針は、ただ青少年育成のあり方を抽象的に示したものに過ぎない。それは、各地域の実状に応じて具体化されることが期待される。総括的にいえば、資源の乏しさを克服して、相当高い生活水準に到達している現代日本において、青少年は将来どのような展望をもって進んだらよいか、これが最大の課題である。

われわれは、青少年の前途に幸福の「青い鳥」の夢を託したい。

## 青少年育成の基本指針

### (個人)

一 個性の独自性に対する自覚にもとづき、その価値可能性を錬磨し、生涯教育の基礎をつくる。

### (社会)

一 家庭の愛情にはぐくまれ、社会生活において、友情と連帯の意識を養う。

### (自然)

一 国土の自然を愛護するとともに、地域社会の文化を尊重し、環境の教育的整備につとめる。

### (世界)

一 諸民族の生活と文化を理解し、平和と親善の心をこめて、国際交流に寄与する。

### (総括)

一 日々の生活のなかに、生きがいを求めてわが道を行き、一隅を照らす光となる。

# は じ め に

「少年の主張」・中学生話し方広島大会2021（第43回「少年の主張」広島県大会，第55回中学生話し方大会）を広島県中学校話し方連盟，独立行政法人国立青少年教育振興機構と共催で，令和3年9月4日（土）に開催しました。

今大会は，新型コロナウイルスの影響から動画による審査となりましたが，県内中学校の32校から3,162編の応募があり，その中から原稿審査を通過した16名が，それぞれの主張を力強く発表しました。

発表内容としては家族，学校，日常生活，コロナ禍の生き方，差別，SNSと様々であり，個性的で多岐に及んでいました。自分の身近な体験や生活の中から感じたことを自分の考えや意見として，分かりやすく述べていただけたと思います。

この作品集は，発表者全員の発表内容を記録しております。

「家庭の日」に関する作文・図画は，県内の小・中学生を対象に募集を行い，県内の小学校41校，中学校35校から作文・図画を合わせて2,042作品の応募がありました。

これらの作品は，日常生活において家族と自分とのかかわり方で感動したこと，家族に感謝している心や存在の大切さなど，自分の気持ちを素直に純粋に表現しています。

応募作品の中から事前審査を通過した作文30作品，図画241作品を厳正に審査し，特選作文3作品，特選図画1作品，入選作文20作品，入選図画5作品を掲載しております。

この作品集を多くの皆様にご覧いただき，小・中学生の思いを受けとめていただければ幸いです。

終わりに，この事業の実施に当たりご協賛いただいた国際ソロプチミスト広島，広島清流ライオンズクラブ，公益財団法人広島青少年文化センター及び県内13ロータリークラブ並びにご協力いただいた関係者の皆様方に深く感謝申し上げますとともに，今後ともご支援を賜りますようお願い申し上げます。

令和3年12月

公益社団法人青少年育成広島県民会議

会 長 神 出 亨

## 「少年の主張」に関する目次

○第43回「少年の主張」広島県大会・第55回中学生話し方大会会場風景	1
○第43回「少年の主張」広島県大会・第55回中学生話し方大会発表者一覧	2
○受賞者一覧	
<b>広島県知事賞</b>	
認め合うことの本質	東広島市立志和中学校 3年 <small>みよし</small> 三好 <small>ももえ</small> 百恵 …… 4
<b>公益社団法人青少年育成広島県民会議会長賞</b>	
画面の向こうに	大崎上島町立大崎上島中学校 3年 <small>こばやし</small> 小林 <small>ちなつ</small> 千夏 …… 5
<b>広島県中学校話し方連盟会長賞</b>	
トンネルとスタート	広島市立祇園中学校 3年 <small>とらた</small> 黄田 <small>ゆづき</small> 悠月 …… 6
<b>国際ソロプチミスト広島会長賞</b>	
自分の弱さに気づくとき	広島市立大塚中学校 3年 <small>こうだ</small> 郷田 <small>かほ</small> 果歩 …… 7
<b>広島清流ライオンズクラブ会長賞</b>	
ひとりじゃないから	三次市立三次中学校 3年 <small>ますだ</small> 外田 <small>さき</small> 咲 …… 8
<b>優 秀 賞</b>	
小さな画面大きな見逃し	廿日市市立野坂中学校 3年 <small>こばやし</small> 小林 <small>めい</small> 芽衣 …… 9
日常	尾道市立日比崎中学校 3年 <small>ほった</small> 堀田 <small>めい</small> 明依 …… 10
伝統と持続可能な社会の両立を目指して	熊野町立熊野東中学校 3年 <small>さねもり</small> 實森 <small>えいと</small> 栄登 …… 11
<b>優 良 賞</b>	(発表順)
言えなかった大切な言葉	庄原市立比和中学校 3年 <small>つだ</small> 津田ほのか …… 12
全ての人が夢を持てる世界へ	江田島市立能美中学校 3年 <small>たかばやし</small> 高林 あみ …… 13
僕の願い	尾道市立御調中学校 3年 <small>あさだ</small> 浅田 <small>せんけい</small> 千慶 …… 14
感謝の気持ちを忘れずに	坂町立坂中学校 3年 <small>いでした</small> 出下 <small>あやか</small> 彩夏 …… 15
プラス思考の輪	広島市立江波中学校 2年 <small>みうら</small> 三浦 <small>ももな</small> 桃奈 …… 16
小さな薬が生活を変える	尾道市立高西中学校 2年 <small>はやし</small> 林 <small>くるみ</small> 来美 …… 17
君だけが持つもの	竹原市立賀茂川中学校 3年 <small>くさか</small> 日下 <small>ななみ</small> 七海 …… 18
<b>基 準 賞</b>	(発表順)
魅力発信 私たちの住む西条の誇り	東広島市立西条中学校 3年 <small>まつうら</small> 松浦 <small>ひでなお</small> 秀直 …… 19
○講 評	
審査委員長 和田 晋 広島市教育委員会教育センター主事・比治山大学非常勤講師	…… 20
○第43回「少年の主張」広島県大会・第55回中学生話し方大会開催要領	…… 22
○審査員及び審査基準	…… 24
○第43回「少年の主張」全国大会～わたしの主張2021～内閣総理大臣賞 受賞作品	
認め合うことの大切さ	岐阜県養老町立高田中学校 3年 <small>ほそかわ</small> 細川 <small>とわ</small> 士禾 …… 25

# 「家庭の日」に関する目次

## 特選（広島県知事賞）

### ●作文の部

ぼくのうまれたとき	東広島市立小谷小学校	1年	ながみ 永見	あさひ 旭	……26
お姉ちゃんとぼく	東広島市立西条小学校	4年	はまだ 濱田	そうま 壮真	……27
ひいおばあちゃんとの8年間	三原市立宮浦中学校	2年	きた 北	こはる 小華	……28

### ●図画の部

家族で山道をサイクリング！楽しいな！	広島市立古田台小学校	5年	みやかわ 宮川	あゆか 歩佳	……49
--------------------	------------	----	---------	--------	------

## 入選（公益社団法人青少年育成広島県民会議会長賞）

### ●作文の部

おかあさん	竹原市立大乘小学校	2年	やすふく 安福	りゅうや 龍矢	……29
じいちゃんのゴルフボール	東広島市立寺西小学校	2年	まき な 牧 那	ゆ た 由大	……30
じいちゃんは野さい名人だ	三原市立糸崎小学校	3年	おか の 岡野	な つ 七都	……31
穴だらけの作業服	竹原市立竹原西小学校	4年	いのうえ ひ な こ 井上陽南子		……32
みんなで作ったぎょうざ	竹原市立竹原西小学校	5年	ぼ ぼ 馬場	ゆう 優	……33
山登りと家族	広島市立緑井小学校	6年	ささき 笹木	れん 蓮	……34
家族への感謝	広島市立戸坂小学校	6年	にし べ 西部	ほの か 穂香	……35
祖父との時間	福山市立新市中央中学校	1年	いけ だ 池田	けいすけ 圭佑	……36
当たり前だけど、当たり前じゃない	東広島市立中央中学校	1年	かばしま 梶島	ゆう な 優菜	……37
祖父母のいる風景	三原市立宮浦中学校	1年	すぎはら 杉原	せい 悟	……38
おばあちゃんとの日々	広島市立井口台中学校	1年	たけうち 竹内	だいすけ 大裕	……39
時間の大切さ、母から学ぶ	庄原市立庄原中学校	1年	ともくに 友國	すず は 涼葉	……40
私の家族	庄原市立庄原中学校	1年	よこやま 横山	はる な 陽菜	……41
コロナのおかげで	竹原市立竹原中学校	2年	かわさき 川崎	ゆう き 勇輝	……42
はがきでつながる	呉市立横路中学校	2年	しげもと 重本	みの り 実理	……43
おじいちゃん	広島市立五月が丘中学校	2年	にしむらりゅうのすけ 西村隆之介		……44
母の手のありがたさ	東広島市立中央中学校	3年	かわ の 川野	としまさ 稔真	……45
家族で行くから思い出になる場所	広島市立江波中学校	3年	たかの 高野	なつみ 夏海	……46
うちはうるさい	東広島市立松賀中学校	3年	と だ 戸田	かすさ 一颯	……47
僕は妹のガードマン	東広島市立西条中学校	3年	はしもと 橋本	たい が 大雅	……48

### ●図画の部

かぞくでキャンプへいってはなびたのしかったよ	東広島市立高屋西小学校	1年	かもと 加本	さ ゆ 紗悠	……50
パパと妹といっしょにしばふにころがったよ	広島市立翠町小学校	2年	かねもと こ こ は 兼本瑚々羽		……50
おじいちゃんとへやの中でキャッチボール	東広島市立龍王小学校	2年	なかもと 中本	はる お 春雄	……50
うちのきゅうりはおいしいぞ！！	東広島市立西条小学校	4年	かわいし 川石	さやか 明果	……50
ず〜と抱っこしてたいな11年差のいとこ。	東広島市立高屋西小学校	6年	かま 釜	みつ き 充樹	……50

令和3年度「家庭の日」作文・図画募集要綱	……51
----------------------	------

審査員及び審査要領	……52
-----------	------

令和3年度応募校一覧	……53
------------	------

# 「少年の主張」・中学生話し方大会 2021

日時：令和3年9月4日（土）9：30～13：30

場所：広島県社会福祉会館（広島市南区比治山本町 12-2）



「少年の主張」・中学生話し方大会2021

第43回「少年の主張」広島県大会 第55回中学生話し方広島大会

集合写真



主催者挨拶



審査（動画）風景



審査（協議）風景



審査講評

## 発表者一覧



基準  
『魅力発信 私たちの  
住む西条の誇り』

東広島市立西条中学校  
3年 まつうら 松浦 ひでなお 秀直



1番  
『言えなかった  
大切な言葉』

庄原市立比和中学校  
3年 つだ 津田 ほのか ほのか



2番  
『全ての人が夢を  
持てる世界へ』

江田島市立能美中学校  
3年 たかばやし 高林 あみ あみ



3番  
『小さな画面  
大きな見逃し』

廿日市市立野坂中学校  
3年 こばやし 小林 めい 芽衣



4番  
『僕の願い』

尾道市立御調中学校  
3年 あさだ 浅田 せんけい 千慶



5番  
『感謝の気持ちを  
忘れずに』

坂町立坂中学校  
3年 いでした 出下 あやか 彩夏



6番  
『プラス思考の輪』

広島市立江波中学校  
2年 みうら 三浦 ももな 桃奈



7番  
『画面の向こうに』

大崎上島町立大崎上島中学校  
3年 こばやし 小林 ちなつ 千夏



8番  
『日常』

尾道市立日比崎中学校  
3年 ほった めい  
堀田 明依



9番  
『ひとりじゃないから』

三次市立三次中学校  
3年 ますだ さき  
外田 咲



10番  
『トンネルとスタート』

広島市立祇園中学校  
3年 とらた ゆづき  
寅田 悠月



11番  
『伝統と持続可能な  
社会の両立を目指して』

熊野町立熊野東中学校  
3年 さねもり えいと  
實森 栄登



12番  
『小さな薬が  
生活を変える』

尾道市立高西中学校  
2年 はやし くるみ  
林 来美



13番  
『君だけが持つもの』

竹原市立賀茂川中学校  
3年 くさか ななみ  
日下 七海



14番  
『自分の弱さに  
気づくとき』

広島市立大塚中学校  
3年 ごうだ かほ  
郷田 果歩



15番  
『認め合うことの本質』

東広島市立志和中学校  
3年 みよし ももえ  
三好 百恵



## 認め合うことの本質

東広島市立志和中学校

3年 <sup>み</sup>三 <sup>よし</sup>好 <sup>もも</sup>百 <sup>え</sup>恵

皆さんは「人種差別」という言葉を聞いてどのようなイメージを持ちますか。自分には関係ない、人種差別なんてしていない、そう考える人がほとんどではないでしょうか。

私は、母が中国人、父が日本人のハーフです。そのため、幼いころから中国の文化に触れることができていました。ただ、ハーフだからという理由で友達に冷やかされたこともありました。

「ねえ、中国人は虫を食べるの。」

と聞かれたこともあるし、「中国は汚い」というイメージを持っている人にも出会いました。私はなぜその人たちが中国に行ったこともないのに、悪いイメージを抱いているのか分かりませんでした。ハーフであることを冷やかされたとき、私はどうしたらいいんだろうと悩んで、それを父に相談したことがあります。父は

「実際におまえは中国の文化を体験しているんだからそんな言葉は気にするな。」

と答えてくれました。私はこの言葉にとても救われました。私は、日中ハーフに生まれたこともあり、幼いころから周囲の人達の外国人に対する偏見について考えてきました。なぜ言葉や食べるもの、肌の色が違うだけで批判的な目で見てしまうのか、それはその国についてよく知らないからだと思います。私の住んでいる地域には、外国の研修生の方が多くいらっしゃるのですが、ある時私の友達がその方たちを見て「怖い」と言ったのです。私は、「よく知らないということが怖いという気持ちにつながっているのではないか」と思いました。だから「もっと色々な国の文化を知ってお互いに認め合う心を持つべきだ」と考えました。そして私は既に中国の文化を体験できているからこそ、「絶対に他国の人やその文化に対して偏見を持たないし、差別的発言もしない」とそう決めていました。

しかし、ある時私はこの自分の考え方が間違っていることに気がつきました。先ほども触れましたが、私は「中国人は虫を食べるのか」と聞かれたとき、

「はあ…そんなわけないじゃん」

とため息交じりに言い返していました。その時の私はまだ、自分自身が虫を食べることは汚いという偏見を持っていたことに気が付いていなかったのです。実は、最近になって私は、中国でも虫を食べる地域もあるということを知りました。それは、私が中国に行ったときに私の目の前で、調理した虫をいところがおいしそうに食べる姿を見たからです。衝撃を受けました。その衝撃とは、「絶対偏見なんか持たない」と決めていた私自身が、虫を食べるという食文化に対し、偏見を抱いていたことへの衝撃です。私自身が認めたくないものが私の中にも潜んでいたのです。でもそれはなぜだろうと考えたとき、私は「表面的に認め合う」ことは出来ていても、「認め合うことの本質」そのものを理解していなかったのではないかと気づいたのです。

私が考える「表面的に認め合う」とは、一面のみを見て、全てを理解したと勘違いしていることです。そして「認め合うことの本質」とは、自分の想像を超えた文化や価値観に触れたときに、自分なりに色々な側面から見つめ、そういう文化もあるんだ、と丸ごと受け止める。さらに尊重するといった寛容な心を持つことです。この「認め合う」ことの本質が理解できたときに私たちは互いに国や文化の枠組みを超えた一人の人間として接することができるのではないのでしょうか。

まだ世の中にはたくさんの差別や偏見があり、苦しんでいる人達が多く存在しています。みなさんは「自分で気付いていない偏見」、持っていませんか。



## 画面の向こうに

大崎上島町立大崎上島中学校

3年 こ ばやし ち なつ  
小林 千夏

「下手くそだから、やめたほうがいいよ。」

誰がどこで、どういった気持ちで発信した言葉なのかはわかりません。ですが、これは紛れもなく、私に向けられた言葉です。

私は、小さいころからギターを弾くのが趣味で、中学2年生のときに初めて、SNSにギターの弾き語りの動画を投稿しました。初めは、色んな方の弾き語り動画に憧れて、私も少しだけやってみよう、その程度の気持ちで始めたことでしたが、「いいね」がひとつ付くたびに、心臓がドクンと波打つ感覚が忘れられず、気づけば、動画投稿は、日常の中でひとつの楽しみになっていました。また、フォロワーが増えていくにつれ、コメントもいただくようになりました。「上手だね。頑張れ！」「そのギターかっこいいね。」など、嬉しい言葉ばかりでした。いつしかSNSは私にとって、遠くにいる共通の趣味の人と繋がることができる、居心地のいい場所となっていました。時には、匿名だからこそ自分の本音を言うこともありました。そうすることで、気持ちがすっきりしました。また、共感やアドバイスのコメントは、私を前向きにしてくれました。

投稿を始めて半年。私の動画に、あのコメントが付いたのです。

「下手くそだから、やめたほうがいいよ。」

私に向けられたその言葉を目にして、悔しさや悲しさがこみ上げてきました。インターネット上で活動する以上、嬉しくない言葉をもらうことは、頭では分かっているつもりでした。しかし、姿の見えない相手に、ここまで心がえぐられるとは、思ってもみませんでした。また、怖さもありました。自分の声が、演奏が、不特定多数の人に見られていて、それを見た人が、必ずしも嬉しい言葉をくれるわけではないということを実感したのです。今までSNS上で嬉しい言葉しか受け取ってこなかった私は、いつの間にか、嬉しい言葉をくれる都合のいい機械とコミュニケーションをとっている、そんな錯覚を起こしていました。そこに感情を抱く心があることを、すっかり忘れて。

ずっと憧れていた弾き語りの上手な配信者の方々。中には、「悪意のあるコメントなんて慣れたよ。いちいち気にしないし、何も感じない。」という配信者の方もいます。いずれも、私よりたくさん誹謗中傷の言葉を受け取られてきた人たちです。「気にしない。」「感じない。」それは、自分の心を守るために必要なことなのかもしれません。しかし、そのような言葉に何も感情を抱かなくなるということはあるのでしょうか。今の私には想像できません。私にとってあの言葉は毒針でした。今でも心に無数の針のように刺さって、思い出してはチクチクと痛みます。決して、コメント欄をスクロールすれば消えるような痛みではありません。自分もいつかは、今回のような言葉を沢山受け取られても、何も感じなくなってしまう日が来るのだろうか。それは、いやだ。そう考えたとき、普通なら傷つく言葉を見ても気にすることなく、この心の痛みを感じなくなるこそ私たち人間にとって、一番怖いことだということに気が付きました。

ネット上から誹謗中傷が無くなることはないのかもしれませんが、しかし、発信する人にも、それを受け取る人にも、心があります。心があるはずなのに、ひとつ画面を隔ててしまうと、現実味が無くなって、見えない相手を想像することさえ難しくなる。目の前の相手には掛けられないような言葉を掛ける。不快な言葉からは、自ら心を閉ざすようになる。それは、インターネットという、心を繋ぐためのツールの使い方として、正しいと言えるのでしょうか。見えないものこそ見ようとする心を持つこと。柔軟な心で想像し、感じる。心の糸が切れてしまう前に一度、画面の向こうを覗いてみてください。姿形は見えなくても、そこには心があるのです。



## トンネルとスタート

広島市立祇園中学校

3年 <sup>とら</sup> <sup>た</sup> <sup>ゆ</sup> <sup>づき</sup>  
寅 田 悠 月

日本中の人々が、東京五輪の開催有無を真剣に論じていた最中、ある男性の「40年前のいじめ自慢」が世界に波紋を呼びました。彼の無責任な行為と言葉が、40年経った今でも癒えることなくいじめられた人に深い傷を残していたように、行為と言葉は、人を簡単に傷つけてしまいます。しかしその一方で行為と言葉は、人を良い方へ導くことも出来るのです。あなたの周りには一人ぼっちな人はいませんか。誰とも話さず孤独でいる人はいませんか。

私の父は転勤族で、私が小学校3年生の時に、神奈川県から広島県に引っ越してきました。なんとなく不安を抱えながらも、なんとかなるだろうと転入生としての初日を迎えました。1日目、一人ぼっち。2日目、一人ぼっち。3日目、一人ぼっち。先の見えない長い時間と暗闇が私に覆い被さりました。私の手の届く先には、楽しそうにおしゃべりをしている子たちがいるのに……。[誰か声をかけてくれないかな] そう思ってもみんな私の横を通りすぎて行くだけ。地獄のような3日間を過ごしました。4日目。朝起きるのも憂鬱で、軽いはずの布団さえ、鉛のように感じられました。「行きたくない、行きたくない……」 そう思いながら布団を押しつけ、重たい足を何とか持ち上げて、気分が上がらないまま学校へ行きました。すると、どこからか声がかかりました。この言葉に、6年たった今でも、忘れることなく鮮明に覚えています。

[ねえ、一緒に遊ぼう。友達になって。]

私は今すぐにでも飛び跳ねたくなる思いで、

[うん、いいよ。]

と、答えました。このたった一言が、私をどれだけ救ってくれたか分かりますか。見たこともない生き物だらけの世界に、たった一人の人間を見つけたような気分でした。それからというもの、毎日のように休憩時間に遊び、気がつけばその子とは放課後も一緒に過ごす親友になっていました。

そんなある日、新たな転校生が現れました。彼女は、物静かで近寄りたがたい雰囲気をもっていたが、転校してきたばかりの頃の自分と重なり、私は彼女に声をかけることにしました。ところがいざ声をかけようとする「ドクン、ドクン」と緊張してしまい、何も言うことができずじまいました。その時、改めて気付きました。あの日、私に声をかけてくれた親友の行動は、とても勇気のいることでそう簡単にできることではなかったということに。

みなさんも経験がありませんか。声をかけようと思っていたのに、声をかけられなかったということ。それでもどうか声をかけてみてください。あなたのたった一言が、一人の未来を変えることができるかもしれません。救いだしてあげてください。その後、どうなるかなんて気にしなくてもいいから。大丈夫です。人間なのだから気が合わない人なんてそこらじゅうにいます。でも声をかけてみてください。難しい言葉なんて必要ありません。

[音楽室、一緒に行こう。]

[ねえ、友達になって。]

たったこれだけの言葉が、心強いサポートになると、私は知っています。

人は一人では生きられません。だからこそみなさんにも、人との関わりを大切に、勇気をもって声をかけてほしいのです。

今この瞬間から、あなたの周りをよく見て、耳を澄ましてみてください。一人は辛い、誰かに声をかけてほしいと静かに叫んでいる声が聞こえてきませんか。楽しそうに会話する周りの人たちが羨ましいと思っている人が、あなたの側にいるはずですよ。あなたは明日、一人ぼっちなあの人にどんな顔で、どんな言葉をかけますか。きっと、あなたのその行為と言葉が、先の見えない暗い暗いトンネルをさまよっている人の足下を照らす温かな灯火となり、その人が新しい世界へ踏み切るスタートになると、私は確信しています。



## 自分の弱さに気づくとき

広島市立大塚中学校

3年 郷 田 果 歩

「ほんとママってめんどくさい。」

中学生になって反抗期を迎え、2年の後半になって毎日のように母とケンカしていた私が、いつも言っていた言葉です。勉強や家の手伝い、言葉遣いのことで注意されるたびに、その3倍くらいの口ごたえをしました。心の中では、母が悪い訳ではない、悪いのは私の方だ、とわかってはいるのです。でも実際に口から出てくる言葉は、小学生の時には言ったことのない悪態、暴言のあらし。自分でも、どこで覚えたんだろう、自分の口からよくもまあこんな言葉が出てくるなあ、つい感心してしまうくらいです。

物に八つ当たりすることもありました。罪悪感はあるのです。母を傷つけたという気持ちで私自身がしんどい思いになります。でも、なぜか同じことを繰り返してしまうのです。母に注意されたり叱られたりすると、すぐイライラしてしまい、自分の感情をコントロールできなくなります。何度も自分を嫌いになりました。ネットで反抗期について調べたこともありましたが、自分でもどうしようもなく、苦しんでいた、そんな中学2年生でした。

3年になり受験を控えて「勉強勉強」と追いまくられている時、学校の進路学習の時間に担任の先生から言われました。

「面接では自分の長所や短所を説明できるように。意外と自分のことはわかっていないものなんだよ。」

と。自分のことがわからないなんてどういうこと？と思いながら、私は自分の弱さについて考えるようになりました。

そんなある日、また母とやりあってしまいました。その晩は、母とは一言も口をきかず翌朝も私は無言で学校に行く支度をしていました。すると私が玄関を出る時、「行ってらっしゃい。がんばってね。」といつもと変わらない笑顔で家から送り出してくれる母の姿がありました。いつの間にか自然と笑顔になっている自分に気がきました。

私は軽い衝撃を覚えて、学校まで歩きながら考えました。自分の弱さとは？自分と母の違いって何？考えに考えてなんとなく私の頭に浮かんだこと、それは・・・。

母は私の人生の少し先を見ていたのです。少し先に、少しだけ大人になった私が存在することを信じてくれていたのです。一方私は、目の前の現実から目をそらし感情のままにただ揺れていたのです。それが反抗期と言えばそうかもしれません。

しかし私は現実から逃げてしまう自分の弱さに気づきました。目の前のことを受け止め、向き合う勇気がありませんでした。向き合うべきは母の言った内容です。それなのに言われた内容から目をそらし、言われたという事実を腹を立てていた私。

さらに考えました。あれっ？もしかするとこれは、新型コロナウイルス感染症やいじめ問題においても同じことが言えるの？自分はコロナに感染しないから大丈夫、自分には関係ないという変な自信。あるいは、いじめられている子を見ても私には関係ない、と知らん顔をして被害にあわないようにすること。これらはすべて、目の前の現実から眼をそむけているのです。

だれでも自分の中に弱い部分があることを、自分自身が知ることが大切だと考えます。

知らないことを自覚するという意味のソクラテス哲学の基本と言われる「無知の知」という言葉があります。私は知らないことばかりです。知っているつもりになっているだけで本当は理解していないことも多くあります。

私はせめて自分の中の弱さが何であるかを自覚し、そこから目を背けず生きていきたいと思えます。そしてその弱さを克服するために工夫と努力を重ね、前に進もうとすること、これが私の今の目標です。いつの日か、私が母から卒業して素敵な一人の大人の女性として母と向き合う日がくることを信じて、目の前の現実から目をそらさずに生きていきます。



## ひとりじゃないから

三次市立三次中学校

3年 <sup>ます</sup> <sup>だ</sup> <sup>さき</sup>  
外 田 咲

「…………もう、生きるの、しんどい…………。」

私は、友人からこのようなメールを受け取ったことがあります。この一言は、私にとってあまりに突然で、そして、とても切なくなる言葉でした。動揺した私は、すぐに「だめだよ！」と返信しました。すると、「何で？」と聞かれたので、「あなたが好きだから、元気で生きていてほしいんだ。」と返しました。

「そっか…………。ありがとう。」の一言で、このやりとりは終わりました。

その後、「私の発言で友人がさらに思い詰めてしまったらどうしよう。」と不安になってインターネットで調べてみました。すると、辛い思いを抱えている人に対して、その人の言葉を否定する言動は望ましくないということでした。だとすれば、私の「だめだよ！」は使ってはいけなかったこととなります。とても後悔しました。でも、その時の私なりに、友人を救いたいという思いから絞り出した言葉だったのです。「好きだから生きていてほしい」、しばらくは、祈るような気持ちで過ごしました。

この友人は今も元気に日々の生活を送っています。私は胸をなでおろしました。しかし、なぜ友人は、私にしんどいという思いを訴えたのでしょうか。

最近、若者の自殺が増加しているそうです。本当に多くの方が、自らの手で…………。何も、自分で命を絶つ必要なんてないでしょう。しかし、本人にしか痛みは分かりません。だけど、もし、その痛みを共感してもらえる環境さえあれば、自ら命を絶つ選択をしなくてすんだのではないのでしょうか。

ふと、過去の体験を思い出しました。人間関係で悩んでいる私に、小学校時代の友人が心配してメールをくれました。私の話を聞いたあと、その友人が「しんどいことを、しんどいって言えるあなたはすごいよ。」

と言ってくれました。具体的な解決方法を示してくれたわけではありません。それでも、私の話や辛さを受け容れてくれる人が近くにいたことに気づき、とても心が軽くなりました。

この体験を思い出したとき、先ほどの「なぜ友人は、私にしんどいという思いを訴えたのだろうか」という疑問が少しばかり解けた気がしました。おそらく、私との何気ない日常会話の中に、友人を受け容れる何かがあったのでしょうか。

私は、こうした体験から、自分ももっと誰かの身近な存在となり、その人に寄り添いたいと考えようになりました。そして、日頃から、友人やクラスメイトの様子を気にかけるようになりました。また、授業中に自分と違う立場の意見に対して、積極的に耳を傾けたり相手の目を見て話を聞いたり、相手を大切にすることを日々意識するようにもなりました。

今、私の話を聞いてくださっている皆さんも、きっと、周りの人の力になりたいと考えて行動しておられることと思います。これからも、それを一緒に続けていきましょう。一人ひとりが行動することで、たくさんの人を助けられると思います。

最後に、今、苦しんでいる人へ。多くのしんどいことが起こっている中で、あなたはもう既に頑張ってきたのだと思います。身近な人に相談して下さい。弱音を吐くことは悪いことなんかじゃない。必ずあなたを助けたいと思っている人がいます。「辛い」、その一言で、どれだけ頑張ってきたか、きっと伝わるから。その辛さを分け合える世界にしていましょ。ゆっくりでもいい。あなたも、私も、自分なりの「生きる」を見つけていましょ。



## 小さな画面大きな見逃し

廿日市市立野坂中学校

3年 <sup>こ</sup> <sup>ばやし</sup> <sup>め</sup> <sup>い</sup>  
小 林 芽 衣

携帯電話やインターネットの急速な普及に伴って、どんどん便利になっていく私たちの生活。けれども、そんな世の中に対して疑問をもつことがあります。

私は、習い事の行き帰りに電車を利用しており、その日も、いつも通りホームで電車を待っていました。何気なく、ホームを眺めていると、次の瞬間、2人いた駅員さんのうちの一人が線路に下りたのです。電車が到着するまでには、まだ5分ありましたが、私の脳内には、一瞬、最悪の事態がよぎりました。しかし、予想とは裏腹に、その駅員さんは、火ばさみで線路に落ちたゴミを拾い始めました。わずか30秒程の出来事ではありましたが、その光景を初めて目にした私にとっては、驚きの出来事であり、それと同時に駅員さんへの感謝と尊敬の気持ちを感じました。

しかし、この30秒間をそんな気持ちで過ごしていたのは私だけでした。なぜなら、その時ホームにいた9人は、全員携帯の画面を見ていたからです。それを見て、私は思いました。手元に夢中になりすぎて、周りが見えていないのではないかと。あの光景を見ていない、9人のその30秒間を、勝手ではありますが、勿体ないとさえ感じました。毎日、通勤、通学に電車を利用している人にとっては、その光景はあたりまえかもしれません。しかし、駅員さんのその行動が、報われなような気がしてなりません。そう考えているうちに電車が到着し、私を含めた約10人は乗車しました。すると、またもや乗客の八割以上が、携帯の画面に向き合っている姿が目の前に広がっていました。

それが、特別悪いことだとは思いません。

こういった移動時間、携帯を利用して勉強することも、ニュースの記事を読むことも、音楽を聞くことも、とにかく、自分にとって有意義な時間を過ごすことができるからです。しかし、それによって迷惑がかかることもあります。例えば、優先席の使い方です。お年寄りの方が立っているのに、優先席には学生が座っているのです。そういうとき、彼らは大抵、友達と喋ったり、携帯を触ったりしています。つまり、自分のことに没頭しすぎて、周りが見えていないのだと思います。

あの30秒間でも、同じようなことが言えるのではないのでしょうか。誰かに迷惑をかけている訳ではありませんが、自分のことに没頭しすぎて、身の周りの出来事のありがたみが分からなくなっていると私は考えます。

今回のことに限らず、何気なく見落としているけれど、誰かがやってくれていることはたくさんあります。例えば、道路の整備です。この作業は交通渋滞の緩和や、事故防止のために行われています。とても重要な役割を担っていますが、整備の方を見かけて、声をかけたことがあるという人は、少ないのではないのでしょうか。他にも、報酬がもらえなくても、誰かの役に立ちたいというボランティア精神で清掃活動などに取り組んで下さる方々もいらっしゃいます。私達は常に、誰かに支えられて生きている、これを忘れてはならないと思います。

携帯やインターネットを使うことには、様々な利点があります。だけど、少し、手元から視線を上げてみると、今まで気付かなかった自然の美しさや、あたりまえの有難さに、気付けるはずです。たまには、小さい画面から広い世界へと目を移してみるのもいいのではないのでしょうか。



## 日常

尾道市立日比崎中学校

3年 ほっ た め い  
堀 田 明 依

毎朝、私の家のインターホンが鳴る。外に出ると、見慣れた顔の友達。学校へ行くまでの間、たくさんの家から朝ごはんの香りがする。正門に近づくと、先輩の吹く楽器の音も聞こえ、私は焦って教室へ向かう。荷物を置いて音楽室へ行くと、席はほとんど埋まっっていて、どこに座ろうかとあたりを見渡す。昼食の時間。列ごとに席をくっつけてご飯を食べながら、会話が広がっていく。部活。先輩に近くで吹き方を見せてもらいながら、楽器を練習する。部活が終わり、靴箱へ。たくさんの人が靴をとろうと必死になり、靴箱はたちまち大混雑。無事切り抜けたと思ったら、帰り道が人で溢れている。その中に私も飲み込まれ、友達とふざけ合いながら帰る。

これが、私の日常。「でした。」

その日常は突然奪われました。私は、いつものように携帯を使っていました。そこに来た1件のメール。

「3月2日から全国の小中学校が休校。」

あまりにも急で、実際その時は、なにも感じる事が出来ませんでした。ただ現実を受け入れることで精一杯でした。しかし、休校になってから、様々な思いが募ってきました。

「なんで私達が……。」「友達と会いたい。」この状況も自分の感情すらも、私にはどうすることもできなくて、不甲斐なさも覚えました。そして私は、その時、強く思いました。

「日常は常に日々の中にあるものではない。」と。

学校へ行けるようになって、元の日常は戻りませんでした。インターホンが鳴り、外へ出るとマスクをした友達。学校へ行くまでの間、マスク越しには朝ごはんの香りがあまりしなくなりました。部活は活動すらできなくなりました。昼食は全員黒板の方を向いて、黙って食べます。密を避けた行動を心がけて、友達とふざけ合うことも少なくなりました。当たり前だと思っていた日常が、突然、なくなりました。

暗い気持ちを抱えたまま、私は学校の一大イベントを迎えました。赤船祭。これは、文化祭と体育大会を融合した生徒会主催の新たな行事でした。コロナ対策もとり、例年の形とは異なりましたが、久しぶりに友達と思いっきり笑い合えて嬉しかったです。この状況下でも出来ることがあることに、希望が湧きました。

それから1か月後。生徒会役員選挙が始まりました。私は、顧問の先生、先輩、担任の先生に立候補することを勧められました。嬉しかったけれど例年とは違う選挙法であること、生徒会活動内容に見通しが立たないことに不安を抱きました。しかし、前生徒会が開催した赤船祭で見つけた希望を思い出しました。この状況下でも出来ることを探したいと思いました。そして、私は立候補しました。

「『できない』に負けず、一人一人が輝ける学校にする。」という公約を掲げて。選挙の結果、副会長を務めることになりました。そして私は、出来ない中でも出来ること、私たちが輝けることを考えるようになりました。

日常。私の日常は大きく変わりました。でもその分、新たな日常の中で幸せや希望を見つける力がつきました。それは私だけではないと思います。そう考えていたら、私達の築いていく未来は、幸せに溢れた明るい未来かな、なんていう希望が、また、見つかりました。



## 伝統と持続可能な社会の両立を目指して

熊野町立熊野東中学校

3年 さね もり えい と  
實 森 栄 登

みなさん、広島県の特産品と言われて思い浮かべるのはどんな物ですか。「かき」「レモン」などを思い浮かべる人が多いのではないのでしょうか。

僕が暮らしている熊野町にも、日本の伝統工芸品である、「熊野筆」が広島県の特産品であります。熊野筆は2011年なでしこジャパンが国民栄誉賞を受賞したときの副賞として贈られ全国的に有名になったことで、聞いたことがあるという人も多くいるのではないのでしょうか。熊野筆は、書道の筆はもちろん、工芸用の画筆、メイクに使う化粧筆などさまざまな用途の筆があり、それぞれに全国一のシェアを占め、海外にも多く輸出されています。

そんな熊野筆は、古くからの歴史をもっています。平地の少ない熊野では農業だけでは生活が苦しかったので、江戸時代末期には、農閑期を利用し、奈良から筆や墨を仕入れ、それを売っていました。その後、広島藩の工芸の奨励策により、全国に筆や墨の販売が広がり、本格的に筆作りの技術の習得が行われるようになりました。

僕の家も代々書道筆を作っており、曾祖父、祖父、父と三代に渡って伝統工芸士の資格を持つ筆作りの家です。

父は、22歳の時に、家業である筆作りの道に入りました。なぜ、この道に進んだかということ、伝統工芸士である、曾祖父、祖父から確かな筆作りの技術を受け継いでいきたいと考えたからだと思っています。そして、その技術を継承し、「伝統工芸士」の資格にチャレンジしました。この資格を得るためには、実技試験、学科試験、作品審査の3つに合格しなければ認定されません。そのため、筆を作る技術を完全に習得することはもちろん、筆に関することを知り尽くし、使う人の用途や要望にあわせ、最適な筆を作れるように日々努力と工夫を積み重ねた結果、37歳という若さで伝統工芸士になることができました。

現在、熊野町には父を含め18名の伝統工芸士がいらっしやいます。また、筆作りに携わっている人も多くおられます。しかし、最近では安く質の良くない筆でもいいという人も増えてきたため、日本の筆の売り上げが減り、その結果、筆作りに従事する人も減ってきているのが現状です。このままでは、日本の伝統工芸品である熊野筆を未来へ受け継ぐことができなくなります。

僕はこの現状を知りながらも、つい最近まで、将来の夢は「サッカー選手」になることでした。代々続いている「筆作り」には、あまり興味がもてませんでした。

そんな時、総合的な学習の時間で「SDG'S」を学ぶ機会がありました。持続可能な開発目標として、17個の目標があることを知りました。その中でも12番「つくる責任・つかう責任」という項目に興味を引かれました。その理由は、「筆作り」に通じるものがあると思ったからです。

熊野筆は、もし毛が抜けて書きにくくなくても、修理して長く使うことができます。また、穂先には動物の毛を使用しているので、環境にも優しいのです。

最近では、動物園とコラボレーションをし、キリンの抜け毛で筆を作り、動物園に展示もしています。また、筆作りの工程で出た材料でキーホルダーやイヤリングなど、新しい製品も作っています。

世界各地で使われるようになった熊野筆。筆が生み出す奥行きのある表現や可能性を知ってもらうとともに、自然に優しい熊野筆は、国を超えて、共感することができるアイテムであると考え、最近では「筆職人」になりたいと思うようになってきました。

筆の可能性は無量大。

曾祖父や祖父、父の思いと確かな技術を受け継ぎ、世界に筆のすばらしさを伝えていくチャレンジができるような、筆職人に僕はなりたいと思っています。



## 言えなかった大切な言葉

庄原市立比和中学校

3年 津 田 ほのか

「ありがとう」「ごめんなさい」日常の言葉ですが、皆さんは家族に素直な気持ちで、ずっと言えていますか。

あるテレビを見ていると、コロナウイルスの影響で学校が休みになり、家で生活をしている小学生の映像が流れてきました。お昼ご飯を食べる時、お母さんがおかずを取ってあげていました。その時その小学生は「ありがとう」と、素直に、自然に、お母さんにお礼を言っていました。私にはできていないことで心が揺さぶられました。

私は母親のいない私をずっと育ててくれた祖母に、最近、大切な言葉を言っていないことに気づかされたのです。

「時間よ。起きなさい。」で始まる毎朝の祖母の第一声。1回で起きない私に「早くしないと遅れるよ。」の第二声。「起きとるよ。」「わかつとる。何回も言わんでも起きとる。」と機嫌悪くいつも言う私です。祖母はその時どんな思いで聞いていたのでしょうか。

また、夜は「早く勉強して少しでも早く寝るようにしなさいよ。毎日のことだから、体を壊すよ。」という祖母に、私は「わかつとる。言われんでもわかつとるよ。」と怒鳴るような声で言い返します。なんて嫌な言葉なのでしょう。

沢山の日常会話の中に、「ありがとう」「ごめんなさい」の言葉はなく、言い訳や文句の多いことを反省しなければいけません。「ありがとう。早くするよ。」と言っていれば、祖母はどんなにかうれしかったことでしょう。

また、学校への送り迎えをしてもらっていても、車から降りるとき「今日は何時下校。」の言葉だけを残し、学校へと走り去って行く私。考えてみれば数えきれないくらい、傷つけている行動をしてきたと思います。祖母がしてくれることに対して、「してもらって当たり前」で済ませている自分。祖母はどんな思いで私のために何も言わずやってくれていたのでしょうか。（本当にごめんなさい。ごめんなさい。この嫌な性格直すからね）何度も心の中で叫びました。

こんないつもの私に父も頭が痛かったのでは？と思います。父の言うことにも、自分の都合の悪いことには耳を傾けようとしなかった私。でも父はどんなに仕事が忙しくても時間を作って、たくさんのお話を聞きながら話を聞いてくれています。それなのに私は父にも「ありがとう。」を口に出して言えていません。

テレビで流れた小学生の映像は、大きな、大切なことを私に気づかせてくれました。

あたり前の言葉。でもとても大切な言葉「ありがとう。」「ごめんなさい。」さっといえるように努力し、家族にも安心してもらいたいと思います。「親しき仲にも礼儀あり。」ということわざがあるように、照れくさいでは済まされないと注意したいです。

祖母からたくさんのお話を学んできたこと、また、これまでに会った沢山の方々から学んだことを、日々実践し、感謝しながら歩んでいきたいです。これから目指す夢への第一歩、高校入試の勉強に力を入れ、志望校に入学できるように頑張りたいと思います。

言えなかった大切な言葉を伝えます。これまで育ててくれた、お父さんあばあちゃん本当にありがとう。そして文句ばかり言ってごめんなさい。私が生きているのは家族のおかげです。祖母や父がしてくれていることを私は全部できません。「優しい気持ち」「感謝して生きる」という気持ちをもって人生を送ることが私からの贈り物であり、一番伝えたいことです。



## 全ての人々が夢を持てる世界へ

江田島市立能美中学校

3年 <sup>たか</sup> <sup>ばやし</sup> 高 林 あ み

「世界の裕福な約 2,150 人の資産の合計が、世界の貧しい 46 億人の資産の合計を上回っている。」この事実を知ったとき私は強い衝撃を受けました。また、これを知る前からテレビ番組などで貧困層の人々の暮らしについて取り上げられているのを見て、興味を持っていました。このような所得格差や貧困で苦しい生活を送る人々に対して私は「平等な世の中になってほしい。」「世界中の人々が幸せな生活を送れるようになってほしい。」と強く思いました。それから、どうしたらこれらの問題を解決に近づけることができるのかを自分なりに考え始めました。そして、次第に「将来、人の役に立てるような仕事、活動がしたい。」と思うようになりました。

まず、世界の現状に目を向けてみました。現在貧困に苦しむ開発途上国に対して先進国が支援を行うなど貧困問題の解決に向けての取り組みがされています。しかし、まだまだ苦しんでいる人が多いのが現状です。最近話題になっている国際連合が発表した SDG's の中には、2030 年までに貧困をなくすという目標があります。あと 10 年も無い中で取り組みを加速させていくにはどうしたらよいのでしょうか。

私たちの国、日本も含まれる多くの先進国では、日々科学技術が進歩し、どんどん生活が便利で楽しいものになっています。それに対して開発途上国は置いていかれている状況にあります。そのため富裕層と貧困層で大きな格差が生まれてしまっているのだと考えました。だから、まずは先進国が開発途上国を手助けすることを優先するべきだと思います。そのためには一部の人だけでなく、先進国に住むより多くの人々が貧困問題に関心を持ち、協力していく必要があると思います。今私たちにできることとして、募金があります。代表的なものでいうとユニセフ募金です。私も生徒会活動で地域の方々に募金の呼びかけをしたことがあります。これからもっと募金をしてくれる人が増えたらいいなと思います。

この問題を解決するために将来私自身には何ができるのか考えました。まずは、実際に貧困に苦しむ人々が暮らす場所に足を運び、ボランティア活動をしたいと思っています。そして、先ほど出てきた募金活動も積極的にしていきたいです。しかし、このような活動をしている方々はたくさんいます。では、それらに加えて私だからこそできることはないのでしょうか。私は幼い頃から人前に立って話すことが得意です。また、アニメと音楽が大好きです。それらを生かして貧困問題をはじめとする世界の問題の解決に貢献することができないか考え、一つの職業にたどり着きました。それが声優です。日本のアニメは世界中で愛されていて大きな影響力を持っています。だから、アニメを通して人々にいろいろなことを伝えたいと思っています。最近ではアニメに出演するだけでなく、音楽活動なども行っており、声優個人の影響力も大きくなっています。そのような活動や SNS を通じて貧困問題やその他の問題についての情報や自分の考えを発信したいと思っています。そしてより多くの人々に関心を持ってもらい、協力してもらいたいです。これが私の大きな夢となりました。

私は、自分の夢の実現が世界の問題を少しでも解決に近づけ、同じ世代の人々に夢と希望を与えることにつながると信じています。



## 僕の願い

尾道市立御調中学校

3年 <sup>あさ</sup>浅 <sup>だ</sup>田 <sup>せん</sup>千 <sup>けい</sup>慶

僕には一つの願いがある。「ソフトボール全国制覇達成」をすることだ。願いと書いたのは夢なんかと比べものにならないくらい何が何でも成し遂げたいと思ったからだ。そう思い始めたのは5年前。小学4年生の頃だ。兄の影響で小学1年生に始め、楽しくのうのうと練習をしていた。だが小学4年生になり、兄が、中学3年生最後の年で見事「全国制覇」したのだ。ただ圧巻だった。すごく輝いて見えた。「10番」という背中がよりそう見せてくれたのかも知れない。それと同時にもう一つの感情を覚えた。「兄を越えたい」と。主将になって、兄を超えるプレイヤーになり、そして「心技体」全てがそろったチームを自分の手で作りたいと。

そしてこの夏、兄と同じ「10番」を背負って最後の戦いにチャレンジする。別に特別上手だった訳ではなかったが、中学校に入り、たくさんの経験をしていく中で、少しは成長できたと思う。特に、2年生の最後あたりに行われた、「都道府県大会」はすごく印象に残っている。3年生の先輩がいないのはもちろんのこと、新型コロナウイルスにより、試合数も極端に減り、練習もままならないまま、キャプテンとして挑み、各県の猛者達と戦った。久しぶりの公式戦と、キャプテンの重圧で、上手く動けず、たくさん助けられた。結果は準決勝敗退。惜しかっただけに余計悔しくて、自分の無力さというか、こうすれば良かったという後悔に押しつぶされそうで涙が出てきた。全国のトッププレイヤーとほぼ互角にやり合えた事、自分の課題を見つけられたなど、全国に向けての修正内容としては、十分なものを得た。後は自分次第だ。

「キャプテン」というのは自分の事、チームの事、全て考えなければならない。自分が打てなくても、チームを盛り上げないといけないし、自分が気に入らないことが起こったとしても、平然を装わなければならない。キャプテンは大変だ。でも、「その分キャプテンって一番達成感あるし、何より一番輝けて、一番かっこいいんで。最高じゃん。」と兄が言ってくれた。確かにその通りだ。今はすごくわくわくしている。その達成感の為にひたすら練習をしている姿を、チームメイトに態度で表したい。

今この深刻なコロナの脅威の中でもこうしてソフトボールが出来るのも、医療関係の方々が懸命にコロナの対処にあたり、先生が、しっかり学校で授業や部活動の指導をしてくださったり、友達と一緒に部活動をしてくれたり、そして何より自分の身を一番に案じてくれる父と母、祖父や祖母、兄弟の家族がいてくれるからだとしみじみ感じる。そして、皆つながっているのだと思った。スポーツには、すごい力があると僕は知っている。僕は兄から「夢」をもらいそれは僕の「願い」になっている。次は僕の出番だ。つながっている全ての人に感謝を込め、そして何かを伝えられるよう日頃の恩に報いたい。そのために「ソフトボール全国制覇」の「願い」を必ず実現させたい。



## 感謝の気持ちを忘れずに

坂町立坂中学校

3年 出 下 彩 夏

皆さんは、親や友達にしてもらっていることが当たり前だと思っていないですか。誰かが自分のためにしてくれた時や、自分がいけない事をして叱ってくれた時、感謝や謝罪がきちんとできていますか。

私が小学校6年生の夏、私の祖父母は亡くなりました。7月6日、その日は大雨が降っており朝から警報が出ていました。

私は両親が共働きのため、学校がある日や休みの日は、自宅ではなく祖父母宅にいました。

ですが、その日に限って、私が留守番したいと言って、私1人で自宅にいました。その頃の私は反抗期だったので、祖父母宅に行ってお手伝いをするのが嫌で、自宅にいたいといったのです。

留守番をしていると、日が沈んでいくにつれて雨が少しずつ激しくなっていたのを覚えています。お昼頃に一度祖母から電話がかかってきました。

「あやちゃんそっち大丈夫？お昼ご飯もう食べたん？お昼ご飯作って持っていこうか。」

でも私は、

「大丈夫、もう食べたけんいいよ。いらん。また、明日行くけんよろしく。ばいばい。」と、言って電話を切ってしまいました。それが最後の会話になったのです。

その後、5時頃に父が帰宅してきて、テレビで避難勧告が出たため、父が「やばい」と言って避難の準備を始めました。その後、一度停電し復旧したと思ったら、数分後、今度は断水しました。

さすがに危ないと思い急いで家を出ました。

はじめは祖父母宅に行こうとしましたが、31号線は大渋滞で30分たっても車は動きませんでした。

私は祖父母のことが心配になり電話しましたが、呼出音は鳴っているのに何度かけても出る気配がありません。そこで、2人の携帯に電話をかけました。それでも出ません。

数分後、おじから電話がありました。その電話で、

「多分じもばばもダメだと思う。小屋浦の川が氾濫して、土砂崩れしとる。」

と聞きました。

父は渋滞で車が動かないため、小屋浦に行くのを諦め、近くのおじの職場に行くことにしました。そしてテレビで流れる映像を見て啞然としました。小屋浦が水浸しでした。

次の日、父は一人で歩いて小屋浦に行きました。クレーンが崩れ、車が通れなくなっていたのです。

私は2人とも生きてると信じていました。ですが、父から送られてきた写真には、土に埋もれ傾いている祖父母宅が写っていました。

避難所にも居ないと聞き絶望しました。

その4日後、祖父母は家の1階の仏間で抱き合って見つかりました。腐敗が進んでいるため、私は2人の最後を見られませんでした。

そこで私はこれまでの2人に対する態度や発言にとても後悔しました。

親にかわり私のお世話をしてくれて感謝しなければならないことが沢山あるのに、私はそれを当たり前だと思い、「ありがとう」や「ごめんなさい」を言えませんでした。

そして、それまでの当たり前前は生活はどれだけ幸せだったかを実感しました。祖父母のしてくれていたことを自分で試みて、その時のありがたさが身にしみて分かりました。

そこで私は、祖父母だけでなく他の人にも「ありがとう」や「ごめんなさい」を素直に言葉にださなければと思いました。

今、私たちが感じている日常は、突然変わります。大切な人も、思いもよらない時にいなくなることがあります。そんな時にでも後悔しないように、みんな日頃から感謝の気持ちをもって行動してほしいです。

今、世界はコロナウイルスによって、生活様式や今までの普通が変わってきています。

そんな中で、日常を取り戻すために頑張ってくださっている人たちが、私たちの周りに大勢います。そして、私たちの1番近くには、友達や先生方もいます。

これから先どうなるかは、私にも他の誰にも分かりませんが、周りの人への感謝の気持ちを決して忘れないでほしいです。そしてみなさんにも忘れないでほしいと願っています。



## プラス思考の輪

広島市立江波中学校

2年 <sup>み</sup>三 <sup>うら</sup>浦 <sup>もも</sup>桃 <sup>な</sup>奈

尊敬する人がいますか。好きなことはありますか。そう聞かれてすぐに「はい」と答えられる人は、大勢いるのではないかと思います。また、嫌いな人がいますか。やりたくないことはありますか。そう聞いてみても、人それぞれの回答が返ってくるでしょう。

私達人間は、一生の内に沢山の感情を抱きます。そして、それに従って思考も働きます。プラス思考、マイナス思考といった言葉を聞いたことはありませんか。これらは名前の通り、物事をプラスに、あるいはマイナスに捉える考え方を指しています。例えば先程の質問において、尊敬する人に対してはその人の良い面を見つけてプラスに捉え、逆に嫌いな人に対しては苦手な面を見つけてマイナスに捉えていると言えるのではないのでしょうか。

私は、どちらかと言うと、マイナス思考に傾きがちです。失敗するとすぐに落ち込み、何かに挑戦する前から、上手くいかないのではないかと否定的な感情を抱いてしまうことがよくあります。そうすると、結果的に目の前の事に集中できないため、思うようにいかず、また落ち込むといった悪循環が生まれてしまいます。

これは他の人と関わる時にも、足を引っぱります。この人とは仲良くなれそうにない、という先入観で、自分から関わる事なく時間が過ぎてしまう事があります。しかし同時に、何かのきっかけで、関わってこなかった人の優しさや明るさといった面に触れることで、それまでの気持ちが嘘だったかのように仲良くなったことも、何度もあります。

私のようなマイナス思考も、他の人の素敵な面に触れて関係が深まるような経験も、決して珍しくはないと思います。しかし、逆に言えば、マイナス思考は身近に溢れるチャンスを奪っているとも考えることもできます。決してマイナス思考が不要な訳ではなく、様々な面を見ることも、失敗の反省や物事が自分に適しているかの確認などに大切ですし、無理に気持ちを切り替えることは、かえって負担になりかねません。適度なプラス思考を持ち、一つでも多くのチャンスを掴むことが、非常に大切ではないのでしょうか。そうすれば自然に明るい気持ちで過ごせるようになるはずですよ。

特に今は、普段明るい人でも気持ちが落ち込みがちな環境になっています。コロナウイルスの影響で、一度ニュースを見るといくつも暗い話題や世間の混乱が目飛び込んできたり、学校においても行事の変更や中止が重なったりして、誰もが辛さや負担を感じてしまうと思います。そのような状況だからこそ、プラス思考を意識するべきだと、私は思いました。自分の力で今の状況自体を変えることはできなくても、その中に楽しみを見出し、この日々を乗り越えていくことは、周囲の人と支え合っていけばできるはずだからです。

まずは自分が嫌だと、辛いと感じることに向き合い、苦手な人がいるのならその人の苦手な部分や話し方を自分もしないよう気を付け、楽しみにしていた行事に変更があったなら、その変更で自分が新たに学べることがないか考えるなど、文句を言うのでも、ただ悲しむのでもなく、前向きに捉えてみるべきです。そして、周りに悲しんでいる人がいるのなら、その気持ちを尊重し、共に前を向く方法を考えてみてほしいです。

これまで話してきたことは、もう意識できている人もいると思います。重要なのは、プラス思考の輪を広げることです。誰もが近くのチャンスを掴み、助け合い、明るく過ごしていれば、それはどんどん広がり、最後は暗く感じてしまうこと自体が減るのではないのでしょうか。まずは一步、プラスに捉えていく道を、沢山の人が、進んでいけることを願っています。



## 小さな薬が生活を変える

尾道市立高西中学校

2年 <sup>はやし</sup>林 <sup>くる</sup>来 <sup>み</sup>美

私の将来の夢は薬剤師です。薬剤師になろうと思ったきっかけは二つあります。一つ目は、薬局での出来事です。二つ目は、ドラマを見たことです。

私が9歳だった頃、夜になると急にじんましんが出て強いかゆみにおそわれることがありました。病院へ行き、薬局へ行きました。薬局では薬剤師の方が丁寧に服用方法を教えてくださいました。その時に、すごくかっこいいと思いました。その日から、薬を服用すると、じんましんが出なくなりました。私は、この小さな薬で生活がこんなによくなるなんてすごいと思いました。だから、私は薬剤師になって、病気で苦しんでいる人の生活をよりよくしていきたいと思いました。

私が見たドラマは、「アンサングシンデレラ」という病院薬剤師のお話です。さまざまな困難を乗り越えながら人に笑顔を与える場面や、患者さんとその家族が楽しい思い出を作れるようにサポートする場面を見て、患者さんやその家族がどんなに苦しくても、薬剤師が寄りそうことで苦しみを減らすことができると思い、より薬剤師に対して興味を持ちました。

私の夢である薬剤師は、人を安心させ、人に笑顔を与えられるような薬剤師です。たとえば、薬局の薬剤師の方が薬を調剤して、服用方法を患者さんに教えるときです。服用方法を教えるときに、「食後に服用して下さい。」だけではなく「この薬は口の中でなめたり、噛んだりして服用できます。副作用がひどく、生活に支障がでる時は相談してくださいね。今、何かわからないところはありますか。」などと付け加えることで患者さんは、病気になって不安だったとしても、この病気としっかり向き合っていこうという前向きな気持ちになることができます。つまり、患者さんの不安な気持ちに敏感になり、寄りそうことで人を安心させることができ、笑顔を与えることができるということです。私は、これらができる薬剤師をととても尊敬しているため、人を安心させ、人に笑顔を与えられるような薬剤師になることが理想です。

ただ、今の私にはできないと思います。なぜなら、今の私には困っている人のために行動を起こす勇気が足りないと思うからです。私の理想に近づくためには、人の気持ちをくみとったり、一言付け足したり、気軽に相談してもらえ信頼が必要です。私は人のためだと思っていたことがその人にとって迷惑になってしまったらどうしようと考えてしまい、困っている人のために行動することができません。

だから、私は地域の人に自分から挨拶をする、積極的に学校のボランティアに参加するなどのあたりまえのことからやっています。地域の人に自分から挨拶をできるようになることで、コミュニケーション能力や人に自分から話しかける勇気を身につけることができます。さらに、積極的にボランティアに参加することで、人のために行動する力も身につきます。私の夢を叶えるために、この二つのことをあたりまえにできるようにしたいです。

私は人を安心させ、人に笑顔を与えられる薬剤師になって、病気で苦しんでいる世界中の人々の生活をよりよくしていきたいです。



## 君だけが持つもの

竹原市立賀茂川中学校

3年 <sup>くさ</sup> <sup>か</sup> <sup>なな</sup> <sup>み</sup>  
日 下 七 海

私には、好きなエンタメユニットグループがいます。そのなかに、一人「性同一性障害」の人がいます。その人は、活動する中で、障害を持っているというだけで、いろんな人たちから、「死ね」「消える」と酷い言葉を言われていました。その言葉を聞いて、「死にたい」と思うこともあったそうです。私はそれを見て、ショックを受けました。世の中には、そんなひどいことをいう人がいるのか。その人が持っている物に対して、悪く言う人がいるのか。怒りや悲しみ…それだけでは表現できない思いが、胸の中でぐるぐると渦巻いていました。

世の中には、いろいろな人たちがいます。病気や障害などを持っている人もいます。そういう人たちを見た目や、当たり前のことのできないからといって、いじめたり責めたり、ましてや、死ねと言ったりするのは許してはいけないことです。

私は、ある時、「男の子になりたい」と本気で思ったことがあります。友達にも相談しました。ときどき、『俺』とも言いました。相談した友達にも使ってみました。驚かれました。「やっぱり変わることはできないのかな」と思いはじめました。自分の中で整理できない感情に押しつぶされそうになっていた時に、好きなエンタメユニットグループの一人が、生配信中におっしゃっていた言葉があります。とても共感できる言葉でした。それは、  
「完璧ってことは個性がないってこと。」

これを聞いて、自分に自信ができました。そうだよ、自分の好きなように生きていいんだ！ありのままの自分でいいんだ！誰かに合わせる必要はないんだ！と勇気をもらえました。

あなたの身近に、病気や障害、自分と違う趣味を持つ人たちがいたら、あなたは、どんな行動をとりますか。いじめる人間ですか。それとも、そういう人たちもいるのだと認める人間ですか。

世界には、いろんな人がいます。さまざまな考えを持つ人、いろんな病気や障害を持つ人、その人たちを理解しようとせずに傷つける人、そして、それに耐えきれなくなった人。皆さんは、この現状から目をそらして、見捨てるのですか。

現実と向き合うためには、その人たちがもつ『個性』を認めて、大事にしていくことが必要です。人には、それぞれ個性があります。個性をみんなが大事にし、支えていくことが誰かの生きる力になります。人間は自分と違うところがあると、いじめたり、差別をしたりします。そして、自殺に発展してしまうこともあります。そのような悲しいことが起きてしまわないように、生まれ持ったその人の個性を大切にしていきましょう。

最後に、伝えたいことがあります。それはこの世界にいるすべての人が、自分と同じ考えを持っている、自分と同じ個性を持っていると思わないでください。みんな、それぞれ違います。たとえ、あなたにとっては変だと感じることであっても、認めてください。お互いに認めあっていけば、自分から命を落とす人はいなくなるはずですよ。

あなたは、いじめて自殺をする人を増やしていく人間になるか、それとも、そういう人たちを支えてあげる人間になるか。

あなたは、どちらの人間になりますか。



## 魅力発信 私たちの住む西条の誇り

東広島市立西条中学校

3年 まつ 浦 秀 直

黒瓦のなまこ壁が一面に広がる酒蔵通り。赤瓦の屋根、赤レンガの煙突が立ち並ぶ風情ある町並みは、雪がととてもよく似合います。

「西条といえば」と聞かれると、やはり「日本酒」と答える人が多いのではないのでしょうか。西条は江戸時代の終わりごろから、酒の都として栄えてきました。京都の伏見、兵庫の灘とつづく、三大名醸地となっています。

その西条で私は小学4年時から、酒蔵通りの子どもガイドとして観光案内をしています。

これまで何気なく見ていた風景にも歴史があること。マンホール一つでも、図柄のアイディアに触られること。ずっと住んでいる町なのに、新鮮な感動を覚えました。そして、自分の町をもっとよく知りたいと思ったのがガイドになったきっかけです。

ガイドをしていく上で、酒造についても、多くのことを学びました。賀茂鶴が吟醸酒を日本で一番最初に作った会社であること。胃弱でお酒を多く嗜めない夏目漱石が「白牡丹」のお酒だけは愛して止まなかったこと。日本で最初の酒造の株式会社である「福美人」が杜氏の人たちが勉強できるように「西条酒造学校」をつくり、卒業生たちが全国で活躍していること。その他にも、それぞれの酒造に歴史や伝統があり、受け継がれる思いや技術に触れる度、もっと多くの人に西条のすごさを知ってもらいたい、故郷を自慢したいと思いました。

観光案内所には、大人のガイドの方々も多数在籍され、ボランティアで活動されています。私は、西条の魅力を伝え続けるガイドの方々から、地域への愛着や熱い思い、この活動や西条に対する「誇り」を感じました。そして、私もそういった「誇り」を受け継いでいきたいと強く思っています。

そもそも「誇り」とは何なのでしょう。私は、このガイドの活動を通し、「誇り」とは、その人やその場所でしか、体験できないこと、感じられないことを大切に思い、そのことを素晴らしいものだと感じるることなのだと思われました。だからこそ、その「誇り」を守っていききたい、多くの人にも「すごい」と知ってもらいたいのだと思います。

しかし、自分もそうであったように、そもそも、西条の素晴らしさについて知らなければ、「誇り」は生まれません。ガイドになってすぐ、小学校の先生方からの質問に答えると、「知らなかった。西条ってすごいね」と自分のことのように嬉しい言葉をもらいました。その時、私は「誇り」が人へとつながるのを感じました。そして、「誇り」を伝えていく、ガイドの仕事は重要な誇らしいものなのだと思います。

昨年はコロナウイルスの影響もあり、ガイド活動がありませんでした。酒まつりも例年とは違うオンライン開催となり、私たち西条中学校の「組曲西條」もオンラインでの発表となりました。オンラインでの開催は少し寂しく感じましたが、この西条の「誇り」が続いたことに意味があるのだと思います。西条の酒造りの「誇り」は江戸時代から続いています。その「誇り」が何代もの人を経て、私たちにつながっています。そして、まつりや組曲、オペラなど様々な形となって広がり、つながっています。形は変わっても、私たち若い世代が西条に「誇り」を持ち、それらを主体となって伝え、つないでいくことが、私たちができる故郷への恩返しだと思います。これからもガイドとして、西条の「誇り」を伝え続けていきたいと思っています。もしも、酒都「西條」を訪れた際は、ぜひ観光案内所にお問い合わせください。私がお案内いたします。



## 審査委員長

広島市教育委員会教育センター主事・比治山大学非常勤講師

和田 晋

審査員 11 名を代表して今回の審査会の様子を発表者の皆さんにお伝えしたいと思います。

まず発表していただいた皆さん、本当にお疲れさまでした。堂々たる立派な発表でした。3,162 名の応募の中から予備審査を通過されました 16 名の皆さんの発表を審査員全員で聞かせていただきました。特に基準発表の松浦秀直さん（東広島市立西条中学校）、そして選ばれた 15 名の発表者の皆さんは発表を終えられてどのような気持ちでしょうか。審査員としては、「発表をやり終えた」、「やってよかった」という達成感や満足感に満ち溢れた気持ちになっていることを心から願っております。皆さんの発表は誠に立派なものでした。素晴らしい発表を本当にありがとうございました。

昨年のこの大会は、コロナの感染予防対策のため人数制限を行い実施されましたが、例年のように発表者がこの会場に集まり対面して意見発表ができました。しかし、今年は残念なことに、いまだ猛威をふるうコロナウイルス感染対策を徹底するため、「事前に皆さんの発表を録画していただいた発表を審査員 11 名が視聴させていただく」というこの大会史上初めての審査方法となりました。その意味において、審査員の皆さんからもこの録画による審査についての良い点、あるいは課題点も色々出されました。今後の大会にその意見を参考にさせていただこうと思いますが、何よりも大変だったのは発表された皆さんであったと思います。カメラに向かって話すということは、本当に難しく今まで経験のないことだったと思います。審査員のなかにプロのアナウンサーの方もいらっしゃいますし、私自身も大学などの講義をする時にカメラに向かって話すということは非常に孤独な戦いで難しいことであると感じています。このような思いを発表者の皆さんがされたということは本当に心が痛みます。先生方や保護者の方々の色々なサポートを受けながらも、ここまでの立派な発表をされたことに敬意を表したいと思います。審査員はその困難さを乗り越えて発表していただいた皆さんの意見発表をきちんと受け止め、厳正な審査に努めました。審査の結果は賞が伴うので皆さんの気持ちが色々動くことと思いますが、まずは「カメラに向かってしっかり意見や主張の発表を貫くことができたことについて、自分自身を高く評価をしていただきたい」、そのように願っております。

それでは本日の審査会において話し合われたことや出された意見について、皆さんにお伝えしたいと思います。

まず今回の発表は例年以上に発表内容やテーマがとても個性的で多岐に及んでいました。何よりも自分の身近な体験や生活の中から感じたことを自分の考えや意見として分かりやすく述べていただけだと思っております。非常に個性的な発表が多く、皆さんの発表内容には「学ぶ点」や「教えさせられる点」がたくさんあったことに心から感謝をしたいと思っております。

発表者の皆さんはご存じのように審査基準は大きく二つあります。一つは「内容」であり、もう一つは「発表と表現の仕方」です。一つ目の「内容」については、皆さんの主張する内容が具体的に身近なものでよかったですが、「論理的で論旨が一貫しているような構成力を持っていたら更によかったですね」という意見が審査員から出ていたことをお伝えいたします。二つ目の「表現と発表の仕方」についてですが、カメラの向こうにいる人を意識してお話をすることは大変難しかったです。ただ、「そのカメラを使いながら、いかに自分の思いを心静かにカメラの向こうにいる人に伝えるか」、そのためには、「皆さんと一緒にメディアの使い方や効果的な伝え方を学ぶということをこれからの課題として習得していただけたらありがたい」といった意見もありました。とても重要なポイントであると思います。この二つの審査基準・内容と発表・表現力を網羅し全体として感動を与える、そのような点を大切に皆さんの発表を審査しました。

内容面において感心させられ強く印象に残った内容・テーマについて皆さんに紹介したいと思います。

ます。すべての発表について紹介できないことを予めお詫びします。

今のコロナ禍の生き方について発表された発表番号 6 番の三浦桃奈さん（広島市立江波中学校）、12 番の林来美さん（尾道市立高西中学校）、14 番の郷田果歩さん（広島市立大塚中学校）は、私たちの背景にコロナ社会がある今の時代だからこそ、の発表でありました。そういった点が強く印象に残りました。

そしてとても重たい内容でしたが、「災害死」、そして「人の死」ということをテーマにされた 5 番の出下彩夏さん（坂町立坂中学校）、9 番の外田咲さん（三次市立三次中学校）は、重たい内容を淡々と事実に基づいて自分の思いを深く掘り下げて相手に伝えようと努めました。テーマは重たいのですがしっかりと私たちの心に伝わってきました。

そして、いま世の中で様々な課題として取り上げられている「SNS」について述べられた 3 番の小林芽衣さん（廿日市市立野坂中学校）、7 番の小林千夏さん（大崎上島町立大崎上島中学校）は、体験に基づく内容と語りを通して SNS 社会に生きるものとして大きな警鐘を鳴らしてくれて審査員の印象にも重く残りました。

更に、差別について中学生らしい意見を堂々と述べてくださった 13 番の日下七海さん（竹原市立賀茂川中学校）、15 番の三好百恵さん（東広島市立志和中学校）は、大人もしっかり学ばなければならぬ重たいテーマを上手く論理的に主張していただきました。特に 2 番の高林あみさん（江田島市立能美中学校）と 15 番の三好百恵さん（東広島市立志和中学校）に共通することは世界を視野に入れて自分の生き方を意見としてまとめていただきました。例年審査を担当しながらお願いすることですが、多感な思春期に目を伏せ内省する内なる目も大事ですが、「世界に向けて目を見開いて自らの意見を外へ発信してくださったこと」、を皆さんとともに学び合いたいと思っております。

次に課題として審査員から出たことについて、皆さんにお伝えいたします。

まずは「原稿を手を持って読むのではなくて、その原稿の内容を言葉としてしっかり自分のものにして発表していただきたい」ということです。目が下に落ちているような状態ではやはり相手に対して自分の思いは伝わりません。そういう点で「しっかり原稿を自分のものにして自信をもち堂々と相手に伝える」という自信をもって発表していただけたら更に内容が深まったのではないかと思います。発表があり残念に思いました。もう一つは「です・ます体」を基本としてわかりやすく発表していただきたいことです。今の社会において相手意識をもって相手にやさしく語り掛けながら自分の意見や思いを伝えていくことは大切なことです。そういった点で相手のことを常に意識した丁寧な語り掛けを今後とも大事にしていだけたらありがたいと思っております。

発表の仕方の中で印象に残った発表があります。内容は辛く重いものでも、「本当に気持ちを込めてわかりやすく、また感情が上手に伝わってくるように語り掛ける」発表が心に残りました。特に 9 番の外田咲さん（三次市立三次中学校）、10 番の寅田悠月さん（広島市立祇園中学校）、15 番の三好百恵さん（東広島市立志和中学校）の語り掛けがうまく感動を与える発表でした。まさに声に表情が感じ取れる発表でありました。そのような素晴らしい発表は、今後同じ世代として学び合っていただけたらと思っております。以上、審査を担当しての率直な思いをお伝えしました。

コロナ禍の厳しい状況の中、更にカメラに向かったの発表を強られる厳しい条件の中で堂々と発表されました皆さんに審査員一同改めてエールを送り称えたいと思います。素晴らしい発表を本当にありがとうございました。皆さんの素晴らしい考え方や表現力をこれからの学校生活の中でも自信をもって是非とも発揮してください。そして、これからの自分らしい生き方に反映していただけたらと期待しております。今回のように言葉を大事にして人に感動を与えるような意見発表ができる皆さんは、今の社会状況において本当に貴重な存在であり宝物です。これからの未来に向けて人を繋ぎ、そしてすべての人の幸せに繋がるような意見発表を心から期待しております。「未来は皆さんにかかっている」と思い、真心からエールを皆さんに送ります。

コロナ禍など大変厳しい状況が続いておりますけれども、今年も大変意義深い大会となり審査員として大変うれしく思っております。私たち審査員はもっと広く言えば、私たち大人は発表者の皆さんの意見を大切に守り育てることができる存在でありたいと思っております。個性的でインパクトのある素晴らしい発表をしていただいた発表者の皆さん、そしてそれを支えていただいた学校関係者、ご家庭や保護者の皆様、審査員を代表して心からお礼を申し上げます。今後ともこの厳しい社会の中で子どもたちに対するサポートをよろしくお願ひします。以上、簡単ですが審査の講評を終えたいと思っております。ありがとうございました。

## 「少年の主張」・中学生話し方大会 2021

### 第43回「少年の主張」広島県大会開催要領 第55回中学生話し方広島大会開催要領

- 1 趣 旨 国際化，情報化が急速に進み，環境が目まぐるしく変化する現代社会において，次代を担う子供たちには，論理的に物事を考える力，自分の主張を正しく伝える力，広い視野と柔軟な発想や創造性などを身につけることが求められている。  
この大会は，中学生が話すことによって伝える力を育み，学び合う機会となるとともに，意見発表を通して，中学生への理解と認識を深めてもらうことをねらいとする。
- 2 対 象 広島県内の中学生
- 3 主 催 公益社団法人青少年育成広島県民会議，広島県中学校話し方連盟  
独立行政法人国立青少年教育振興機構
- 4 協 賛 国際ソロプチミスト広島，広島清流ライオンズクラブ，  
公益財団法人広島青少年文化センター
- 5 後 援 広島県，広島県教育委員会，広島市，広島市教育委員会，広島県公立中学校長会，  
広島県私立中学高等学校協会校長会，中国新聞社，NHK広島放送局，中国放送，  
広島テレビ，広島ホームテレビ，テレビ新広島
- 6 開催日時 令和3年9月4日（土） 10：00～14：30
- 7 日 程 9：30～10：00 受付  
10：00～10：15 開会行事  
10：15～12：30 発表  
12：30～13：30 出場者記念撮影，昼食「少年の主張」全国大会のDVD上映  
13：30～14：30 審査発表，表彰，閉会行事
- 8 開催場所 広島県社会福祉会館 2階 講堂  
(広島市南区比治山本町12-2)  
(注) 新型コロナウイルス感染症対策のため，発表生徒1人につき引率者は1人とする。また，同対策のため内容が変更される場合があります。
- 9 発表内容 次のA，B，Cの中から，日ごろ心に思っていること，考えたことや感銘を受けたことなどを，自由でユニークな発想と，飾り気のない言葉でまとめたもの。  
なお，未発表，自作のものに限ります。  
また，商業的な固有名詞の使用は極力避けるようにしてください。  
A 社会や世界に向けての意見，未来への希望や提案など。  
B 家庭，学校生活，社会（地域活動）または，身の回りや友だちとの関わりなど。  
C テレビや新聞などで報道されている社会の様々な出来事に対する意見や感想，提言など。

- 10 発 表 小道具は、使用しない。  
**発表時間は5分程度**（目安として400字詰め原稿用紙4枚程度）  
ただし、6分を超えるものは審査対象外となりますので、ご注意ください。
- 11 応募方法 申込書に原稿を添えて、中学校長を經由して提出する（原稿は返却しない）。  
ただし、市町、青少年育成市町民会議等の類似の大会で入賞した中学生の応募も可とする。  
この場合、市町等においてその旨を付記して、市町等から提出するものとする。  
原稿は原則**400字詰め原稿用紙（A4判縦書き）を使用すること**。（学校等で使用されるB4判縦書きも可とする。）
- 12 申込締切 **令和3年7月30日（金）必着**
- 13 事前選考 提出された原稿を主催者において審査し、大会出場者を決定する。なお、大会の出場資格を得た者については、各中学校長等あてに8月中旬に通知する。
- 14 審 査 審査は、学識経験者、マスコミ関係者、関係行政機関の職員、（公社）青少年育成広島県民会議及び広島県中学校話し方連盟並びに協賛団体の代表者によって構成する審査会で行う。
- 15 表 彰 広島県知事賞、（公社）青少年育成広島県民会議会長賞、広島県中学校話し方連盟会長賞、国際ソロプチミスト広島会長賞、広島清流ライオンズクラブ会長賞（各1名）、優秀賞（若干名）及び優良賞を選考し賞状を贈る。
- 16 副 賞 この大会で、広島県知事賞、（公社）青少年育成広島県民会議会長賞、広島県中学校話し方連盟会長賞、広島清流ライオンズクラブ会長賞、国際ソロプチミスト広島会長賞を受賞した5名には、副賞として海外研修が（公財）広島青少年文化センターから授与される。  
時 期：令和4年夏休期間の5日間（予定）  
訪問先：大韓民国（予定）
- 17 そ の 他 この大会で、広島県知事賞を受賞した者を、独立行政法人国立青少年教育振興機構主催の「少年の主張」全国大会（11月14日（日）東京で開催）への出場候補者として推薦する。
- 18 問い合わせ先 公益社団法人青少年育成広島県民会議「少年の主張」係  
〒730-8511 広島市中区基町10-52（広島県環境県民局県民活動課内）  
電 話 082-513-2742  
ファクス 082-511-2173

## 審査員及び審査基準

### 1 審査員

審査員長	和田 晋	広島市教育委員会教育センター主事・比治山大学非常勤講師
審査員	江種 則貴	公益社団法人青少年育成広島県民会議副会長
//	勝矢 務	広島清流ライオンズクラブ会長
//	谷崎 栄子	広島県教育委員会義務教育指導課指導主事
//	田原 直樹	中国新聞社論説委員
//	樽谷 和子	公益財団法人広島青少年文化センター 理事
//	出山 知樹	NHKエグゼクティブアナウンサー
//	豊原 三紀男	広島県環境県民局県民活動課長
//	藤本 恵	広島県中学校話し方連盟顧問
//	松井 浩子	国際ソロプチミスト広島会長
//	与座 淳	広島市教育委員会指導第二課指導主事

(五十音順, 敬称略)

### 2 審査の基準

概ね次の点を採点ポイントとし、内容、論旨、表現、態度等総合的に評価を行う。

- ① 鋭い感性で、新鮮な主張であるか。  
(柔軟な発想に基づく意見や提言、未来への希望や夢・メッセージ、新しい情報や視点など)
- ② 具体的な内容とともに、一般性・社会性の広がりがあるか。
- ③ 提案や提言を実現・実践する意欲や積極性が感じられるか。
- ④ 論旨が一貫し、構成がしっかりしているか。
- ⑤ 発表に熱意が感じられ、迫力があるか。
- ⑥ 主張の内容が感銘と共感を与えているか。
- ⑦ 説得力のある話し方であるか。
- ⑧ 発表の早さや間のおき方、姿勢が適当であるか。

## 認め合うことの大切さ

岐阜県養老町立高田中学校

3年 ほそ かわ と わ  
細 川 土 末

みなさん、もしあなたが、片腕のない人を見かけたら、どうしますか。声をかけますか。それとも、かけませんか。もし、あなたがお子さんと一緒にいるときならどうですか。「見ちゃだめだよ。」そんな声をかけますか。

僕の妹には、生まれつき片腕がありません。そのことで、妹はたくさんの辛い思いをしてきました。—「あの子、手がないよ。」

今年の春、妹がある女の子から言われた一言です。妹は、どうしていいか分からないと、戸惑いと悲しみの表情を浮かべ、僕たち家族の前でわんわんと泣いていました。その姿は今でも僕の目に焼き付いています。それを見た母も、本当に苦しそうでした。まるで何もしてあげられない自分を責めるかのように、ただ泣いていました。そのときのことを思うと、胸がぎゅっと締め付けられます。ただ、みなさんに知ってほしいことは、妹は、このような経験を何度もしてきたということです。

そうした中、僕は自然と考えるようになっていました。もし、自分が、逆の立場だったらどうするのだろうか。妹と同じように、片腕がない人がいたら、足がない人がいたら…、僕はどうするのだろうか。

きっと、「見てしまう」と思います。なぜでしょうか。答えは簡単です。「自分と違うから」です。時に、「違う」ことは、問題を引き起こす原因にもなり得ます。しかし、「違う」と認識すること、これは、差別なのでしょうか。そもそも今年の春、妹の手がないと言った女の子。彼女に、相手を苦しめようとする意志はあったのでしょうか。きっと答えは、「NO」です。

僕は思います！僕たちはいつからか、「差別をしないこと」＝「何もしないこと」、ひいては、「目を背けること」だと、大きな勘違いをしているのではないかと。冒頭で話した、「見ちゃダメだよ」という発言も、このような勘違いから生まれた言葉じゃないでしょうか。

違いを認識し、見て見ぬふりをする、そして、何もしようとしないうこと、これこそが、大きな問題だと、僕は思うのです。なぜなら、僕たち人間は、違いを知るからこそ、その先のことを考えることができるはずだからです。

それから僕は、妹にかける言葉が変わりました。

「見られるのは当たり前だよ。だってさ、自分と違うんだから。」聞いた妹は、少しきょとんとして、僕の顔を見つめていました。

僕も妹も母も、辛い経験を多くしてきましたが、考え方一つで、こんなに大きく傷つくことはなかったのかもしれない。相手は違いを認識しただけ。その先が何よりも大事です。僕たちも、もしかしたら、スタートラインに立っていなかったのかもしれない。

妹のおかげで、僕は大切なことに気付けたような気がします。差別とは、考えることをやめ、相手から目を背けることなのです。ですから、「見ちゃだめだよ。」に代表されるような言葉は、一見相手を思いやっているようにも見えますが、考える機会をただ奪うことにもつながりかねない、上辺だけの言葉なのです。ですから、僕たちは、まず、その人らしさを認め、違いを受け入れ、その上で、その人にとってどんな行動や考え方が必要なのかを考え、見つけ出していくことが、何よりも大切なのです。

妹がいてくれたからこそ、僕は目を背けず、考えることができました。

妹がいてくれたからこそ、僕は相手の気持ちを考え、行動することができました。

今の僕があるのは、まぎれもなく妹のおかげです。本当にありがとうございます。僕は、これからも、妹が、そして、全ての人が、心から笑っていただけるように、目を背けず考え続けます。その先に、差別のない社会があると信じて。





# 「家庭の日」に関する作文・図画

特選

## ぼくのうまれたとき

東広島市立小谷小学校

1年 <sup>なが</sup>永 <sup>み</sup>見 <sup>あさひ</sup>旭

ぼくがはじめてのつたのりものは、きゅうきゅうしゃです。それはなぜかという、ぼくはよていよりもはやく生まれ、じぶんではこきゅうができなくて、おおきいびょういんにはこぼれたからです。

ぼくは、そのときのことをぜんぜんおぼえていません。だからぼくは、おとうさんやおかあさん、6ねんせいのおにいちゃん、おばあちゃんにいろいろはなしをきいてみました。

おとうさんは、おしごとがおわるとまいにちぼくのところへ、おかあさんのぼにゅうをもってきてくれたそうです。ぼくはびょういんのなかのNICUというおへやににゅういんしていました。おとうさんは、たくさんのかだにつながれたぼくに、たくさんこえをかけてくれていたことをはなししてくれました。

おかあさんは、ぼくよりはやくたいいんしておばあちゃんのおうちでからだをやすめながら、ぼくのことをおもいおちちのじゅんぴをしてくれたそうです。そして、おとうさんのおしごとがおやすみのひにはびょういんにきてぼくといっしょにすごしてくれたそうです。おかあさんがぼくをはじめてだっこしたとき、なみだをながしてよろんでいたとおとうさんがおしえてくれました。

まだ4さいだったおにいちゃんも、おやすみのひには、おみまいにきてくれました。おへやにははいることができなかったので、ろうかからぼくをよろこばせようと、たくさんおもしろいかおをしてくれたそうです。

「かわいい。かわいい。」

と、ぼくをみてはなんかいもいっていたそうです。

おじいちゃんとおばあちゃんは、ぼくがはやくげんきになるようにずっとねがってくれていました。ぼくがたいいんしておばあちゃんのおうちにかえってきたとき、ふたりともやさしいえがおでむかえてくれだっこしてくれたそうです。とくにおじいちゃんは、ぼくのあたまをやさしくなでながらずっとだっこしてくれていました。

ほかにもいろいろなおはなしをききました。

おはなしをきいておもったことは、みんなぼくがうまれてきたことをとてもよろこんでくれていることと、げんきにそだってほしいというきもちがつたわりました。ぼくは、うれしいきもちになりました。

おおきくなっただけでもそれはかわらず、かぞくみんなぼくにやさしくしてくれます。

ぼくは、かぞくのみんながだいすきです。

## 特選

# お姉ちゃんとぼく

東広島市立西条小学校

4年 <sup>はま</sup>濱 <sup>だ</sup>田 <sup>そう</sup>壮 <sup>ま</sup>真

ぼくのお姉ちゃんは中学生。年がはなれているし、しっかり者なので何をやってもかなわない。みんなに優しいので、まわりからの人望もあつい。でも、ぼくにはやたらと冷たい気がする。ふだんから、ぼくに対してはいろいろときびしい。

そろばん教室でも、ぼくがちょっと羽目を外しそうになると、先生より先に、お姉ちゃんから「そうまー。」

と冷たい目つきで注意される。

そして、家でも親に言われるより先に、お姉ちゃんからきびしい指てきがあったりする。分かってはいるけど、ちょっと面白くない時もある。

けれども、夏休み、そんなお姉ちゃんと友達と、4人で公園に遊びに行った時のこと。みんなで楽しくおにごっこをしていたら、コンクリートで足をすべらせ、こけてしまった。思いっきりこけたせいで、ひどく足をすりむいてしまった。

公園から家まで、歩いて5分。足をひきずりながら帰ろうとしていると、お姉ちゃんが「おんぶとだっこ、どっちがいい？」

と、優しく聞いてくれた。びっくりして、答えられずにいると、

「ハイ」

と、すわってせなかをだしてくれた。

てっきりぼくは、またいつものように冷たく注意されると思っていた。でもそういえば、ぼくがこうやって本当にこまっている時は、いつも当たり前のように、さっと助けてくれることを思い出した。そして、それはぼくにつねに気を配ってくれているからだ気づいた。

ぼくは、うれしい気持ちと、はずかしい気持ちと、感しゃの気持ちなど、いろんな思いが混ざり合っ

て、ジーンとした気持ちになった、そして、お姉ちゃんのせなかで、

『あんまりめいわくかけたくなかったのにな・・・』

と思いながら、

『いつも心配かけてごめん。』

と、つぶやいた。

それから家まで、お姉ちゃんが歩くたび、一步一步、申し分けなくて、

『ありがとう』

と、何度も何度も思いながら帰った。

今度、お姉ちゃんがこまっていたら、ぼくが真っ先に、助けてあげようと思う。ぼくを一番に気にかけてくれるお姉ちゃんだ。これからは、お姉ちゃんがぼくに気を配らなくてすむよう、心配をかけないようにしたい。そして、ぼくもお姉ちゃんに気を配り、真っ先にサポートしてあげられる弟になるんだと、心に決めた。

## 特選

# ひいおばあちゃんとの8年間

三原市立宮浦中学校

2年 <sup>きた</sup>北 <sup>こ</sup>小 <sup>はる</sup>華

私の家には、アルツハイマー型認知症のひいおばあちゃんがいました。1年半前に95歳で亡くなってしまいましたが、これは過去のひいおばあちゃんとの出来事です。

8年前、私は埼玉県からひいおばあちゃんと一緒に暮らすために、引っ越して来ました。なぜなら、ひいおばあちゃんが一人で暮らすことができず、祖母が大変なので、その手助けをするためと、途中で子供達を転校させたくないという母の思いもあったそうです。

8年前のひいおばあちゃんは認知症が進行している時で、今思えば一番ひどかった時です。例えば水筒やリモコンなどの身の回りの物がなくなることは頻繁でした。時には、小学校の旗当番の旗がゴミステーションに捨てられていることもありました。特にひどかったのは暴言です。

「帰れや！」や「出ていけ！」

など毎日のように言っていました。しかし時には、「こっちこい」「これ食べんさい」「かわいいのお」など優しい言葉もかけてくれていました。母の話によると、ひいおばあちゃんはとても子供好きで、面倒見が良かったそうです。病気というのは理解していましたが、それでもひどい暴言をはくひいおばあちゃん、何度注意しても分かってもらえず、イライラしたり逆にどなったりしていた母がいました。私はまだ小さかったので何も言えなかったけど、スイッチが入ったかのように怒りだすひいおばあちゃんに、

「また始まった・・・。」

と嫌な気分になることもたくさんありました。

ひいおばあちゃんを自由にさせてあげたかったけど、一緒に暮らしていくためにひいおばあちゃんの部屋以外にカギをつけたり、勝手に外へ出れないようにと制限をかけました。今になって、この時のひいおばあちゃんの気持ちはどうだったのだろうと思います。そんな状態が3、4年ぐらいい続きました。その後だんだん動けなくなって寝たきりになりました。この頃になると暴言ははかなくなり、優しくなっていた様な気がします。私が5年生のころには、自分ではご飯も食べれないので私がお飯をあげるのを手伝ったり、祖母や母がおむつをかえたりしていました。

そんな生活の中で私がすごいなと思ったのは、仕事に行く前にひいおばあちゃんのお世話をしに出かける母。ひいおばあちゃんに美味しいものを食べさせてあげたいために、調理の工夫をして毎日手作りしていたり、しゃべりかけたり、一緒に歌ったりしていた祖母は、とてもすごいなと思いました。1人の人のために家族やヘルパーさんなど、たくさんの人が関わっていることも分かりました。

認知症は忘れてしまう病気だけど、寝たきりの状態になっても、年に何回かだけ名前を思い出して口にすることがありました。それを聞いて人の思いはどこかに残っているものなんだと不思議に感じました。母や祖母は、そんな時、昔の嫌な暴言をはくひいおばあちゃんのことなんて全く思い出さず、涙が出るほど嬉しくなると言っていました。

私は、最初は受け入れることが出来なくても、相手のことを思いやり、どう考えているのかをしっかりと考え、「人」を大切にしていきたいと思います。ひいおばあちゃん、たくさんの経験をさせてくれてありがとう。

## 入選

# おかあさん

竹原市立大乘小学校

2年 やす ふく りゅう や  
安 福 龍 矢

おかあさんに、がんができた。おかあさんが、びょういんに行った日、ぼくは、おばさんとゲームセンターでまっていた。おかあさんが、むかえにきた。

「がん、あった。」

と、ぼくが言った。

「あったよ。」

とおかあさんが言った。ぼくは、がんがよく分からない。家にかえって、おかあさんとおばあさんが話をしていた。ぼくは、しゅくदैをしていた。おばあさんが、

「おかあさんが、入いんしたら、おとうさんとばあばとじいじといっしょに、おかあさんが元気になるまでがんばろうね。」

と言った。

「おかあさんがいない間…。」

となんかいも、おばあさんが言った。ぼくは、がまんしていた。おばあさんが、へやから出て行った。

ぼくは、ないた。おかあさんに、だきついてないた。おかあさんも、ぼくをぎゅっとしてないた。

3日ご、おとうさんとおかあさんが、大きいびょういんに行った。ぼくは、おばあさんの家でまっていた。よるごはんに、にこみハンバーグを作った。早くかえってこないかなーと思った。おかあさんが、かえってこないから、でんわをかけた。

「おかあさん、今どこ？早くかえってきて。」とぼくは言った。

「ごめん。今から、かえるから。」

とおかあさんが言って、おばあさんとでんわをかわった。

「9月7日が、手じゅつ。」

と聞こえた。ぼくは、カレンダーにがんと書いた。メッセージカードに「おかあさん、がんばって」「だいすきだよ」と書いた。おかあさんの声を聞いたら、さみしくなってぼくはないた。おとうさんとおかあさんが、かえってきた。ぼくはうれしくて、おかあさんにだきついた。にこみハンバーグをたべて、

「りゅうやが作ったから、すごくおいしいよ。」と言ってくれた。

ベッドでねる時に、ぼくはおかあさんの体の上にかぶさって、  
「おかあさんは、ぼくがまもる。おかあさんは、ぜったいしなない。」

とおまじないをかけた。

やっぱり、がんはよく分からない。おかあさんは、

「生きるために、手じゅつをしてくるね。」

と言った。ぼくは、おかあさんがいなくなるのはいやだ。

おかあさんは、なおる。手じゅつがんばってね、おかあさん。



入選

## じいちゃんのゴルフボール

東広島市立寺西小学校

2年 牧

な ゆ た  
那由大

夏休みに5日間、じいちゃんちにとまりにいきました。ごはんの一ばんさいごにたべるのが米です。ばあちゃんにいつもおにぎりをつくってもらっていました。とまりにいて3日目にいつもみたいにおむすび

「つくって。」

といったら、でんわがなりいつものおむすびができなくなりました。すると、じいちゃんが、

「つくってあげる。」

といいました。じいちゃんがおむすびをつくるのをみたことがないからうそでしょとおもいました。

うそだとおもっていたけど、本当につくれていたので、すごいとおもいました。

たべてみたら

「うまい。」

と、ぼくはいいました。

「ならよかった。」

とじいちゃんがいいました。

「このおむすびのなまえはなんなの。」

とききました。

「ゴルフボールおむすびだよ。」

とじいちゃんがいいました。

そしてかえる日に

「じいちゃんのゴルフボールおむすびをしっている。」

とおかあさんにききました。

「しってるよ。おかあさんも子どものころすきだったよ。きがあうね。」

とおかあさんがいいました。

やっぱりきがあうしこのみもほぼおなじだからやっぱりおやこだなとおもいました。

## 入選

# じいちゃんは野さい名人だ

三原市立糸崎小学校

3年 <sup>おか</sup> <sup>の</sup> <sup>な</sup> <sup>っ</sup> <sup>つ</sup>  
岡野七都

「夏休みになったらね。」

わたしは、じいちゃんとばあちゃんとやくそくをしていました。夏休みになるのが楽しみでしかたありませんでした。じいちゃんとばあちゃんの家にとまりに行けるからです。

きょ年もとまりに行ったけど今年はずっと楽しみでした。なぜかと言うと、じいちゃんが「今年は、ナスときゅうりとミニトマトを植えたけえとりにおいで。」

と言ったからです。

いよいよとまりに行く日になりました。はじめて庭に植えてある野さいを見てびっくりして、「うわあーでか。こんな大きい葉っぱ見たのはじめて。なっちゃんの顔よりでかい。」

と言いました。じいちゃんはうれしそうに、

「でかいじゃろう。」

と言いました。そして、朝にはとってはいけないことや雨がふるとトマトにあながあいてしまうこと、ホースで水やりをすると野さいがよわるのでじょうろで1時間も水やりをすることなどを教えてくれました。

「とっていい。」

と聞くと、じいちゃんは

「まてまて。ナスは20センチくらいが食べごろじゃけ。」

と言いました。

次の日の朝、ナスとミニトマトときゅうりをとりました。とりたてのきゅうりには、小さなぶつぶつがついていました。きゅうりの先にかれたお花がついていてびっくりしました。ミニトマトをとったときは、ブチッといっていちごがりていちごを取ったときみたい気持ちよく取れました。ナスは、はさみでとりました。わたしの取ったナスは、顔のようなおもしろい形をしていました。わたしは、

「なすのおばけじゃ。生きとるみたい。」

と言ったらじいちゃんは、

「生きとるんよ。かわいいじゃろう。いっぱいせわしたらおいしくなるんよ。ばあちゃんにおいしくりょう理してもらって食べよう。」

と言いました。ばあちゃんがなすのみそしるを作ってくれました。きゅうりとトマトはパンにはさんで食べました。サンドイッチは、お店で買うのとぜんぜんちがってシャキシャキであまずつぱかったです。

帰る時、ばあちゃんが

「これ持って帰ってみんなで食べ。じいちゃんのそだてた野さい食べとったら夏バテせんよ。」とたくさん野さいのおみやげをくれました。

楽しみにしていたおとまりは、今までで一番楽しくて発見がたくさんありました。

じいちゃんばあちゃん、いつもありがとう。じいちゃんみたいに物知りがかせで、ばあちゃんみたいに心をふわふわぽかぽかにできる人になりたいな。いつまでも元気で見守ってね。



## 入選 穴だらけの作業服

竹原市立竹原西小学校

4年 <sup>いの</sup>井 <sup>うえ</sup>上 <sup>ひなこ</sup>陽南子

わたしが、お父さんの作業服をたたんでみると、穴がたくさん開いているのに気がつきました。1cmくらいの小さなものから、4～5cmくらいのものまでいろいろな穴がありました。

「お父さん、この服、穴だらけじゃん。」

と言うと、お父さんが、

「仕事で使っている薬品のせいだよ。」

と言いました。

お父さんは、鉛を作る会社で働いていて、そこで硫さんを作る仕事をしています。硫さんは、セメントを作る時などに使われますが、とてもきけんな薬品です。はだにつくと、やけどをして、服や長ぐつにちると、とけて穴が開くそうです。お父さんの作業服にたくさん穴を開けたのは、この硫さんのしわざでした。

お父さんは、硫さんの入ったタンクの点検の時に、長ぐつに穴が開いて、足に大やけどをしたことがあります。救急船で病院に運ばれました。けがをしたところを見せてみようと、ひどいやけどで、はだの色が真っ黒になっていました。ちゃんとなおるかなと、とても心配でしたが、病院に通ったり、お母さんが何回もほうたいをかえたりして、お父さんのけがはだんだんおっついていきました。

お父さんの仕事は日きんと夜きんに分かれています。夜きんの日は、夜中ねないで仕事をするので、お父さんは夜きんの前は昼間にねてから仕事に行きます。だから、わたしが休みの日や学校から帰った時なども、ねていることがよくあります。そんな時、お母さんは、わたしに、

「お父さんがねているから、しん室に入らないでね。」

と言いますが、わたしは、

「はあい。」

と返事をして、お母さんの目をぬすんで、お父さんのいるしん室へ向かいます。お母さんに見つかり、お母さんは、

「陽南ちゃん、お父さんをしっかり休ませてあげて！」

と、こわい顔で言います。一度は退散しますが、わたしはお父さんと遊びたくてしかたがなく、あれこれ理由をつけて、お父さんにちょっかいを出しに行きます。とうとうお父さんは、ゆっくりねていられなくなって、結きよく、わたしと遊んでくれる、という事がよくあります。

わたしは、お父さんが足をけがした日、いつもお母さんが

「お父さんを休ませてあげて。」

と言っている理由が本当によく分かりました。あの時は、お父さんを心配する気持でいっぱいでしたが、今では、やけどのあとも消えて、すっかり元どおりになり、そして、わたしはまた前のように、休んでいるお父さんを起こしに行くようになりました。でも、穴だらけの作業服を見て、お父さんがきけんとなり合わせで仕事をしているんだと、あらためて思い出しました。やっぱり夜きん前のお父さんをちゃんと休ませてあげようと思います。

お父さん、いつもお仕事おつかれさま。なかなか、わたしとお父さんの休みの日は合わないけれど、今度2人とも休みの時は、えい画か水族館に連れて行ってほしいな。

今日の晩ご飯は、ぎょうざです。ぼくの家では、休日には、家族で料理をつくります。今まで作った料理はピザ、たこ焼き、お好み焼きなど、家族で作っては、出来立てを食べながら「次は、何を作ろうか。」

と話し合うのが休日の楽しみです。

今までぎょうざは4勝4敗で、皮がやぶけたり、焼きすぎたりして、改良していきました。今日こそ満足のいくぎょうざをつくらうと決心しました。皮は、スーパーでいろいろためして「これだ。」

と思った皮を兄が自転車で買ってきてくれました。

次にブタ肉を2時間以上前に調味料を付け、そのあとしっかり味がつくように200回以上もみこんで冷ぞう庫でゆっくりねかせました。

その間、キャベツに水をぬくために塩をふって、ネギ、ニラ、キャベツを包丁できざんで、しょうがとにんにくをませこみました。

2時間以上ねかしたブタ肉にそれをませてやっと役者がそろいました。ですが、包みの達人である父が帰ってきていないのでじっと待ちました。

「早く、帰ってきてよ。」

と兄がいらいらしていました。

そしてやっと父が帰ってくると、やっと、ぎょうざを包み始めることにしました。さすがお父さん目にも留まらぬ速さで包んでいきます。

すると妹が、ぺったんこぎょうざを作り始めました。ぼくもいいなと思ってどらやきぎょうざを作りました。すると、母がやさしく笑いながら、

「これは、楽しみじゃねえ。」

と言いました。ぼくも妹も兄も父も大ばく笑でみんなオリジナルのぎょうざを作り始めました。

さていよいよ焼くお時間です。そして伝説のぎょうざ焼き名人である父のまた出番です。

「ジュー。」

こうばしいにおいが、家中にただよいます。早く食べたいので、

「まだあ。」

と言ってしまいました。

すると、名人の父が

「うるさいよ。音を聞いているんだよ。」

と顔をしかめました。

そしてしばらくすると、音が少し変わったのを感じとって

「今だ！」

と言ってふたを開けました。ひっくり返すとみごとにハネがついたぎょうざができました。やっと、食べれると思うとよだれが出ます。

みんな一口ずつ食べました。すると急に無口になりました。

「今日は勝ったね。」

家族みんなでニヤリと顔を見合わせました。

次は、何を作るのかなと、今から楽しみです。

## 入 選

# 山登りと家族

広島市立緑井小学校

6年 ささき 木

れん 蓮

ぼくの家族はしゅ味で山登りをしています。ぼくも、5才の時から山に登っています。家族と山に登っていると多くの事を学べます。

まず、五感がとぎすまされる感じがします。山は一つとして同じものがなく同じ山でも季節や天気や湿度などで違います。その違いをいつも目や鼻や皮ふで感じる楽しさがあります。

次に達成感を家族で共有出来ます。これは、登山以外ではなかなか味わえない感覚です。登山中はスマートフォンやテレビも無く家族での会話時間が増えます。多く話し、しんどくなると声をかけ合い登っています。山に登っている時、ぼく達家族はチームになっています。チームが力を合わせて登り切り、無事に下山した後の達成感は、ほこらしくうれしいです。

それから、登山でがんばる力がつき、自分の感情をコントロールする力がつきました。

ぼく達は、年間約70から80座の山に登っています。何度も何度も苦しい時間を経験しています。山以外の事もきつとがんばれば達成出来る気がします。がんばる習慣の中で自信も養われているのだと思います。

感情をコントロールするという点でこういうエピソードがあります。ある時、いつもの様に家族と会話しながら登山をしていた時、なぜかイライラした気持ちになり、父に生意気な事を言っしまいました。イライラしている自分がいやになりその直後は兄や母に話しかけられてもそっけなく返事する事しか出来ませんでした。ただもくもくと登る事をがんばっていました。もし家の中なら、他の部屋に行ったりテレビを見たり、逃げ道があるけど山の中ではイライラしてもただ登山するしか方法がありませんでした。登山している内に気持ちを落ち着かせる事が出来ました。気持ちが落ちついた後はまた家族との会話を楽しむ事が出来ました。その時母が、

「思春期はホルモンのせいで気持ちがイライラしたりするんよ。八つ当たりせず感情をコントロール出来てえらかったね。」

とってくれました。その時ぼくは、さっきのイライラした気持ちが反抗期特有の物だったのだと知りました。もしまた同じように、イライラした気持ちになった時は少し自分を客観的に見ようと思いました。ホルモンのせいだと知っているといライラした自分をいやだと思わなくて済むと感じました。なるべく感情をコントロールしたいと思いました。八つ当たりして家族を傷つけないからです。

家族登山のおかげでぼくは、体も心もきたえられたと思います。

これからも家族と楽しみながら自分も成長していきたいです。

## 入選

## 家族への感謝

広島市立戸坂小学校

6年 <sup>にし</sup>西 <sup>べ</sup>部 <sup>ほの</sup>穂 <sup>か</sup>香

私は、家族に感謝しています。私がこうして生きていられるのは家族が支えてくれているからだし、学校に行けているのもお父さんやお母さんが仕事をして働いてくれているからです。感謝の気持ちを言える時だってあるけどはずかしくて言えない時もあります。言えない時には、行動で表すことができます。例えば、お母さんのお手伝いをしたり、ご飯を作ったりなど行動で表して感謝を示すのもできると思います。そして、手紙を書いたりして感謝を伝えるなど感謝を伝える手段はたくさんあります。

私は、夜まで働いてくれているお父さんに感謝を伝えたくて手紙をなんども書いた事があります。その手紙に私はこう書きました。

「お仕事おつかれ様。いつも私達のために、お仕事をがんばってくれてありがとう。」

と書きました。その手紙は、テーブルの上において私はねました。次の日の朝、テーブルの上を見つめると手紙がなくなっていました。お父さんがお仕事に行く前に私は、

「きのうテーブルの上にあった手紙読んだ」

と聞きました。お父さんは、

「うん、読んだよ」

と言いました。それに続けて私は、

「その手紙、どこにやったの」

と聞きました。すると、お父さんのお仕事に持っていくバックの中からクリアファイルが出てきて、クリアファイルの中には、きのう書いた手紙が出てきました。お父さんが、

「この中にもらった手紙を入れてお仕事に持っていつているんだよ」

と言いました。私は、少しの手紙を大切に取ってくれているんだと思ってとってもうれしくなりました。また書きたいと思いました。私は、それ以来友達や家族にももらった手紙を、

「手紙のファイル」

という名をつけてそのファイルに保管しています。保管している自分にとって心が気持ち良くなります。今でも、だいぶ前にももらった手紙を読んでいます。ときどきその手紙を読んだりしています。

感謝の気持ちを伝える手段はたくさんあります。どんな手段を使うかは自分が考える事だけど、感謝をされた人やした人はみんな同じ気持ちだと私は思います。感謝をすると、人と深く関わり合えたり、気持ちが良くなったりして良い事だと思います。



## 入選 祖父との時間

福山市立新市中央中学校

1年 いけ だ けい すけ  
池 田 圭 佑

「栗じいちゃん、今日熱中症で倒れて、救急車で運ばれたんよ。」

母の言葉におどろかされた。それと同時にとても心配になった。

栗じいちゃんというのは、母方の祖父でぼくはよく似ていると言われている。たしかに体型が似ているなどぼく自身もそう思う。あと耳たぶも似ている。いつもは、優しくておもしろいけれど、厳しさもある。コロナウイルス感染防止のための緊急事態宣言の時には面倒を見てくれていたが、ぼくの生活態度が悪くてよく怒られた。そんな栗じいちゃんが倒れたなんて信じられなかった。

入院中は、全く面会もできず心配だった。早く元気になってほしかったので、母と兄と考えて手紙を書いた。こっちの様子が分かるように写真も入れた。

1週間後、母からうれしいニュースを聞いた。栗じいちゃんが退院したと言う。

「これから、栗じいちゃんちにいくよ。」

母の言葉に、元気になったじいちゃんに会えると思うとうれしくなった。

しかし、想像していたじいちゃんの姿とは違った。ずっと横になって目をとじたまま。ぼく達が見舞いに来たことすら気付いていなかった。しばらく静かな時間が続いた。「何でしゃべらないのかな。しんどいのかな。」といろいろ考えた。すると、テレビからオリンピック卓球女子の伊藤選手の試合の様子が聞こえてきた。

「日本の金メダルすごいよなあ。」

思い切って声をかけてみた。

「うん。」

と、栗じいちゃんは小さな声で答えた。

しばらく2人で試合を見ていると、伊藤選手が1ゲーム取られてしまった。すると、次のゲームでスイッチが入ったかのように、11対3でそのゲームを取った。ぼくはそれを見て、

「怒ったなあ。」

とつぶやいた。これを機に、じいちゃんとの会話がはずむようになった。何だかいつもの栗じいちゃんに戻った気がして安心した。

後から聞いた話によると、コロナ禍で面会もできず、入院中ほとんど誰ともしゃべらず心がふさぎこんでいたのだという事だった。

数日後に会いに行った栗じいちゃんは、いつものように、

「ガハハハッ。」

と豪快に笑っていた。

そして、ぼくと話した事で心が元気になったとうれしそうに教えてくれた。それを聞いて、栗じいちゃんの役に立てた事がうれしかった。ぼくにも役に立てる事があるのだと思った。

「家族に対しての思い」。最初はよく分からなかった。ピンと来なかった。それに何だか複雑な糸が絡み合っているような感じでした。

私は家族、特に両親のことが嫌いではない。表立った反抗もした覚えがない。しかし、親から受ける注意に関しては、あまり良く思っていなかった。「これ、やっといてって言ったよね。」と言われるのは私がそれをやっていなかったせい。テストの成績があまり良くなくて、「もっと勉強なさい」と言われるのも私が上手く勉強しなかったせい。注意されるきっかけを私自身がつくっていることぐらい分かっている。それでも親から受ける注意は耳が痛かった。(そんなに言わなくてもいいじゃん…)と勝手に心の中で言い訳をしていた。妹のことも嫌いではなかった。両親のように私に注意をしてくるわけでもない。妹が特別扱いされ、「お姉ちゃんでしょ」と言われて私が我慢するといったこともない。けれど、どこか自己中心的なところや、気に入らないことがあるとすぐ不貞腐れ、場の雰囲気を壊すところに関してはうんざりしていた。

そのようなことがあり、家族に対して「好きではあるんだけどイヤだな…」というまるっきり反対の気持ちがあった。だからこそ、「家族に対しての思い」がパッと出てこなかったのかもしれない。

ところがある日、家族に対しての思いが変わったことがあった。そのきっかけは、学校の先生が発した言葉だった。

『自分に注意をしてくれる人がいるのは子どもである今だけ。大人になると間違っている誰も注意してくれなくなる。』

この言葉にハッとした。私の中で注意とは「ただ従うもの」だと無意識に思っていた。時には、まるでちくわの穴をスッと通っていくかのように聞き流していた注意。それは子どもである今聞いておかなければいけないものだとして今更ながら改めて気づいた。「良薬は口に苦し」という習った時にはいまいち分からなかったことわざの真意が、身に染みだ気がした。

私は、そのハッとさせられた言葉を聞いて、もう一つ思ったことがある。それは、先生は『注意されることが当たり前だと思うな』とも言っていたのではないかということだ。これは完全な自己解釈。先生本人は当たりの「あ」の字も言っていなかったため、そう思っているかどうかは分からないが、不思議とそう感じていた。

「注意される側」としては、「注意されない」のが理想。「注意する側」としては「注意しない」のが理想。そのお互いの理想を実現するために、「注意される側」の私から行動を起こす。そして、それでも受けた注意は自分のためだと思って素直に聞き入れる。「当たり前じゃん」と思うかもしれないが、それができていない人は少なからずいるだろう。注意をしてきている家族に感謝をし、注意をされるのが当たり前だと思わないこと。いつも一緒に過ごす家族に対してだからこそ、その思いを時には忘れてしまうかもしれないが、せめてこれは言っておこう。

いつも、ありがとう。

これからも、よろしくね。



## 入選 祖父母のいる風景

三原市立宮浦中学校

1年 すぎ はら せい こと  
杉 原 成 悟

僕には祖父母がいます。共働きの両親に代わり、幼い頃から僕の面倒をみてくれた大事な家族です。

今から約2年半くらい前、家族で野球を見に行ったことがありました。なにをしていますが、野球が始まると手がとまって野球に集中してしまうほど野球好きの祖父母は、とても楽しみにしていました。でも、球場へ歩いて行くと中いつも元気だった祖母が、その日はともしんどそうでした。それから、祖母の体は日に日に状態が悪化していきました。そこで病院に行き診察してもらおうと心臓に問題がみられ、しばらく入院したのち手術を受けることになりました。手術の前日、僕は祖母に会いに行きました。手術の前日というのに祖母は、手術のことより僕のことを心配してくれました。

「ありがとうね、遠くまで。それより明日の学校、大丈夫。」

そして、おじいさんが自分で料理を作ったことを笑顔で話していたので、僕は安心しました。

その日の夜、僕の頭は祖母のことでいっぱいでした。なぜなら、ペースメーカー手術という心臓の動きを助ける機械を体に植え込む困難な手術だったからです。それにもし手術が失敗したら、僕が面倒を掛けすぎたせいだと思い、どきどきしていました。

次の日、学校から帰り母親に祖母のことを聞いてみると、無事手術は成功したとのことでした。その瞬間、全てが楽になるように感じ、喜びがあふれてきました。

しばらくして、祖母の病室に行ってみると、疲れはてている祖母がいました。困難な手術だったため、ともしんどかったようです。そして、病院のテレビを見てみると、やっぱり野球中継でした。久しぶりに祖母と一緒に野球を見て、一緒に応援することができて、うれしかったです。それに帰り際には、少しずつ祖母に笑顔がもどってきたので安心しました。僕は、早く元気になって、また一緒に野球を見に行きたいと思いました。

現在は、祖母の体は元気になり、祖父は80歳となりました。しかし、コロナ禍のため、実際に野球を見に行くことは、難しくなりました。それでも、祖父母とワイワイガヤガヤ言いながら野球中継を見ています。

僕には、祖父母との思い出がたくさんあります。野球の楽しさを教えてくれたのも、祖父母でした。カープのことを教えてくれたのも祖父母でした。今でも、祖父母と見る野球中継は特別なものなのです。

今年のカープは、現在セリーグの最下位です。祖父は、元気がありません。でも、僕はそんなカープを祖父母と一緒に応援していこうと思います。ずっと応援したいと思います。

## 入 選

# おばあちゃんとの日々

広島市立井口台中学校

1年 竹 内 大 裕

僕には、一人暮らしをしているおばあちゃんがいます。おばあちゃんは、いつも僕のことを気にかけてくれる、とても優しいおばあちゃんです。おばあちゃんの家は、近所なので、僕は時々、おばあちゃんの家へ、泊まりに行きます。僕が行くと、おばあちゃんは、とても喜んでくれます。おばあちゃんは、いつも、僕の好きそうな食べ物を用意してくれます。おばあちゃんは、いつも、僕がお腹を空かせていると思っているらしく、それが少し、面白いです。そんなおばあちゃんですが、足や腰が悪いので、なかなか一人では出掛けることができません。出掛ける時には必ず、誰かが、一緒について行きます。

昨年の冬のことです。おばあちゃんが、夜中に、家で転んで、倒れてしまいました。朝になって僕が、おばあちゃんの家に行くと、おばあちゃんが倒れて、動けなくなっていました。僕は、あわてて、母親にそのことを知らせ、救急車を呼びました。おばあちゃんは、そのまま入院しました。僕は、心配でたまりませんでした。そして2か月くらい入院して、おばあちゃんは無事、退院することができました。僕は、嬉しくて、すぐに、おばあちゃんに会いに行きました。おばあちゃんは以前と変わらず、笑顔で、僕を待っていてくれました。その出来事以来、僕は、おばあちゃんと過ごす日々が、以前にも増して、大切に感じられるようになりました。

おばあちゃんは、「自分の家が一番いい。」とよく言っています。一人暮らしなので、大変な事も多いのですが、ヘルパーさんや、訪問のリハビリの先生、看護師さん、地域の方々、たくさんの人に、支えられながら、おばあちゃんは、今も、自分の家で、楽しく生活しています。僕は、おばあちゃんを近くで支えてくださる、周りの人たちにも、とても感謝しています。おばあちゃんと過ごしていると、人を支えるいろんな職業があって、そんな中で、みんな生きている事を実感させられます。こうして、僕が、おばあちゃんと過ごせるのも、こうした人たちの支えがあるからこそなのだと思います。

おばあちゃんは、僕の、かけがえのない家族です。これからも、おばあちゃんが、元気でいられるように、僕も、今まで以上に、手助けしながら、楽しい時間をたくさん、一緒に過ごしたいです。

## 入選

# 時間の大切さ、母から学ぶ

庄原市立庄原中学校

1年 ともくにすすは 友 國 涼 葉

「おはよー。すーちゃん。」

カーテンを開けながら母の声が聞こえる。布団にくるまって起きない私に、怒り口調で声をかけ、私はゆっくり体を起こして1階に下りる。半分眠りながらイスに座り、目を閉じたまま用意された朝食を食べる。食べていると、庄原市の朝の定時放送が流れる。6時30分。これが私の朝のルーティンだ。中学生になって初めての誕生日。母は「自分で起きれるようになるといいね。」と、私の好きなスヌーピーの目覚まし時計をプレゼントしてくれた。時間によって絵が変わり、とてもかわいい目覚まし時計で、アラーム音もかなり大きい音だった。「これなら起きれる」と楽しみにしてセットして寝たが、アラームが鳴っても自分で止めてまた寝てしまい、結局母が起こしに来てくれる。今では、枕元に置いて一緒に寝ている相棒になっていて、母がやはり目覚まし時計をしている。

母は時間に正確だ。1日を計画立てて、大切にすごしている。最近母を見てそう思うようになった。母はよく「1日24時間はみんな同じだから、そこをどう使うかが大切。」と言う。母は、仕事が休みの日でも変わらず朝早く起きている。ゆっくり寝たらいいのにと「休みだから時間ももったいない。」と言う。何をしているのか聞いたら、いつもはできない所の掃除や、仕事を家に持ち帰っていて、朝するとはかどると言っていた。何より休みの日の朝の時間は大切にしていると教えてくれた。キッチンのカウンターの上には、メモ用紙がいつも置いてあり、そこには日付けと、やる事リストが書いてある。買い物する物も忘れないうちに書き留めて、買うようにしていると言う。メモ用紙は、やる事がいっぱい書いてある。やり終わったことから線をひいて消していく。全て線がひけたら「やり切ったぞ。」と満足すると母は教えてくれた。「1日を無駄にしなかったぞ。」と自分で自分をほめると母は笑いながら言っていた。

中学生になって初めての中間テストがせまった2週間前。母は「計画を立て勉強した方がいい。」と教えてくれた。わかってはいたが何をどう計画立てていいかわからなかった。宿題もある。課題もある。試験勉強もある。塾もある。学校から帰ってからの時間、テレビを見たりゲームをしたり、マンガを読んだり好きなことをしていた時は十分にあると思っていた時間が、勉強しようと思ったなら何をしてもいいかわからず、時間だけが過ぎていくように感じた。「時間が足りない。」と感じた。期末テストは9教科もあった。中間テストよりも4教科も増えた。更に「時間が足りない」と焦った。でも中間テストの試験週間の経験を生かして、「今日は何を勉強するか。」計画をしっかりと立てた。母と同じように、やる事リストを作った。その日、計画通りに勉強できたら「やったぞ」とうれしくなった。計画通りに進んで、早く終わったら好きなマンガを読んだり息抜きもできた。計画通りにできると「がんばったぞ。」と思える。母が自分で自分をほめると言っていたことが、わかった気がした。

中学生になり、気がつけば1学期が終わって夏休みになっていた。小学生の時よりも時間が進むのが早く感じる。勉強もたくさんあるし、クラブもある。1日がすぐに終わり、またすぐ朝が来る。すぐに終わる1日だからこそ「今日は何しようかなあ」ではなく、「今日は、これをしよう。」と計画立てて、一日一日を大切にすごしたいと思った。母のように計画を立てて、時間を大切にしたい。まずは朝、自分で起きて朝の時間を大切にしよう。母が大切にしている朝の時間を増やしてあげたい。

小さい頃、私は、父、母、兄、祖父、祖母で住んでいました。父と母は仕事をしていたので私と兄は1歳から、保育園に通うようになりました。迎えは祖父や祖母にしてもらっていたそうです。夕方は両親が帰ってくるまで祖父母と兄と過ごしていました。

私が3歳の頃、祖母は体調が悪くなり、物忘れもひどくなり介護が必要となりました。祖父は介護に疲れ、祖母はグループホームに入りました。それから祖父は私と兄の送迎や学校が休みの日の食事の心配や、病院に連れて行ってくれたり毎日何かと面倒を見てくれていました。そんな祖父も私が5年生の夏にがんが見つかり、私たちに病気になったこと、病気の治りょうをすることを教えてくれました。それを聞いたときは、もう一緒に居られないのだなあと思っていました。それでも治りょうをしながらも、前と変わらず送迎をしてくれたり、畑の仕事をしたりしてくれていたのが安心することもありました。しかし、どこかで祖父と過ごす時間がもうあまりないといつも思っていたので、できるだけ祖父と過ごすようにしました。夏休みには一緒に、畑の仕事をしました。ジャガイモやサツマイモ、ブルーベリーの苗木をたくさん買ってきて育て方を調べたり、ケーキを焼いたり、たくさん笑いました。ウォーキングにもついていきました。上野池の周りも歩きながらかわいい犬を見つけたり、野良猫の心配をしたり庄原の自然の話や季節で変わる桜の木の様子などたくさんのお話を聞きました。病気が分かってから1年くらいたったころから、少しずつしんどそうな日が増えてきました。入院することも多くなり家の中が寂しくなっていました。コロナウイルスのため面会することもできなくなり、毎日新聞を届けていたお母さんから祖父の様子を聞いていました。

ある日祖父が退院することを聞きました。でもそれは1週間だけでした。母はこの1週間は特別になるといいました。私なりに、祖父とこの家で過ごすのはこれが最後なんだという事を感じていました。母もそれを伝えたのだと思います。久しぶりにみた祖父はずいぶん弱っていました。食事でも食べれず栄養な点できだけでした。学校から帰ると、私は祖父に最近ハマっているゲームの話や、カーブを一緒に見たりしました。兄は祖父に、どんな大人になってほしいかなど難しい話をメモを取りながらしていました。そして1週間過ぎ祖父はまた病院に行きました。それからちょうど1か月後に祖父は一人で天国に行きました。

祖父は病気になってからの思いを短歌にしていました。その短歌では、病院での様子や、私たちの心配や、祖母の心配、感謝の気持ちや悲しい気持ちたくさんのお気持ちが書いてありました。私が印象に残った短歌は「もう少し孫の成長を見るために苦しき治りょうを克服し我は帰るぞ」という短歌と「病室を訪れし孫2人少し見ぬうち大人びて元気だしてがんばれと言う」この短歌を読んで私は喜びと悲しみの二つの思いが交互に湧きあがりました。ほかにも父の事、母の事、祖母の事などみんなを思う短歌がたくさんありました。

祖父がいなくなってから、ひとりで留守番することや、送り迎えなど大変なことが数えきれないくらいたくさんあります。そして何より家族が少なくなるとこんなに寂しいことかと感じています。だから私は家族の大切さがわかります。どんな時も、家族一人一人に役割があってお互いを支え合って生活しているのです。祖母は今もグループホームで生活していますが、休みの日には面会に行きます。時々私のことを自分の娘と間違えたり、兄のことを父と間違えて呼んだりしますが気にしません。祖母と一緒に暮していなくても大切な家族です。



## 入選 コロナのおかげで

竹原市立竹原中学校

2年 川崎 勇輝

コロナウイルスが流行し始めて、家の中でいる時間が増えた。そのおかげで、普段話さないことも家族で話すようになり、友達という時とは違った楽しい時間を過ごすことも多くなった。そして、家族の大切さを感じられるようになった。

家族とどのようなことを話すのかといえばバスケットボール部の練習メニューや、どのような雰囲気練習をしているかということなどだ。さらに、チームの良いところやもっと良いチームにするために何が必要かということなど、とても具体的に部活動の話をしている。今までは、そんな話を家族にすることは全くなかった。

友達と過ごすときには、ゲームをしたり、少し子供っぽい遊びをしたりして過ごすのだが、家族とはあまりゲームをすることはなく何気ない会話でも楽しく感じてしまうことがある。家族と過ごす時間には、友達と過ごす時間とは違った良さがある。

また、家の中で過ごしているとひまな時間ができるので、そんなときは、掃除をしたり洗い物をしたり、洗濯をしたりする。家族が楽になるようなことをしてあげると、家族の笑っている顔が見られて、うれしくなるし、安心する。やるのはだるいし面倒くさいけれど、結果的には、ストレスもなくなるし、ごほうびをもらえることもあるし、いい気分になることが圧倒的に多い。

周りのために行動することの大切さを学ぶことができた。家の中で過ごす時間が増えたことで、ネガティブだった自分が、少しずつポジティブに変わってきていると感じる。

前よりも、絶対に家族の仲が良くなったと思う。以前と比べて、家族にはいろんなことを話せるようになったし、相談しやすくなった。自分だけでなく家族のみんなもそう感じているのではないかなと思う。

ネガティブなことばかり考えていると、気分が悪くなる。だから、みんなで毎日楽しく過ごせるように、ということで、最近家族で始めたことがある。それは、1日1人三つ「良いこと」を必ず見つけるというものだ。

また一つ家の中で過ごす楽しみが増えた。今日はこんな良いことがあった、こんなことをした、という会話や、時には自慢などをして、家族団らんの時間をもっと増やしていきたい。家族とたくさん日常会話をして、その時間を大切にしていきたい。

コロナのおかげで、悪いことも、あるけど他のことで良いことが少し増えているということに気がついた。

「また手紙送ってね。」

祖母と電話で話すと、必ずとっていいほど言ってくる言葉です。私は月に2枚ほど、はがきを送っています。はがきには、楽しかったり、おもしろかったりした出来事、ありふれた日常の一部を書いています。祖父も祖母も、このはがきをととても楽しみにしてくれます。私がはがきを送るようになったのは昨年からです。

2020年4月16日、全国に緊急事態宣言が出され、学校も休みになりました。中学生になったばかりですることにも特にありませんでした。外に出ることもできないし、もちろん祖父や祖母とも会うことはできませんでした。時間を持て余していたとき、ふと手紙を送ってみようと思立ちました。時間はたくさんあるので、すぐに作って送りました。ずっと会えていなかったのに、祖父も祖母もとても喜んでくれました。学校が休みの間は、話題がたまったらすぐに作って送っていました。

学校が始まってからは送るペースが遅くなったものの、月に2枚は送れるように話題を集めていました。試験が近づいて送れなくなる時もありました。すると電話で、

「まだかな。すごく楽しみにしているよ。また送ってね。」

とお願いされました。こんなに楽しみにしてくれているんだと思うと、とても嬉しくなりました。感染者が少なくなったときに、顔を出しに行くと、私が送ったはがきを大切そうに見ている祖母がいました。心から、送ってよかったと思ったのを覚えています。

もう、最初のはがきを送ってから1年以上たちました。はがきは、なかなか会えない祖父・祖母と私をつないでくれるものになっています。はがきを読んで「楽しませてもらった」や「元気になる」と言ってもらえると、私も元気になります。今では、昨年のはがきと内容がかぶらず、季節が感じられるように工夫しています。外に出ることが少ない今、家の中でも外にいるときのように季節を感じ、楽しんでもらえるようにいつも考えます。電話をすれば、はがきの話で盛り上がり、たった1枚のはがきでこんなに良い時間があるのはいいなと思いました。

これからも、祖父・祖母の笑顔のために、はがきを出し続けようと思います。世の中では暗いニュースが多くても、私は明るいニュースを送れるようにしようと思います。そして、今にしかできない祖父・祖母へのはがき作りを十分に楽しんでいきたいと思っています。おじいちゃん・おばあちゃん、また手紙送るからね。



## 入選 おじいちゃん

広島市立五月が丘中学校

2年 <sup>にし</sup>西 <sup>むら</sup>村 <sup>りゅうのすけ</sup>隆之介

僕とおじいちゃんとはいろいろなことがありました。今からその一部を紹介します。

小学4年の夏、僕は夏休みの宿題に頭を悩ませていた。その中でも特に憂鬱だったのは、習字だった。僕はおじいちゃんにそのことを言った。するとおじいちゃんは半紙を持って来た。そして、これで練習しろとだけ言って自分の部屋へ帰って行った。僕は少し戸惑いながらも僕は書き始めた。それから1時間半ぐらい経ってから集中力が切れて、休憩しようとする、おじいちゃんが来た。そしておじいちゃんと一緒にチョコレートのアイスを食べた記憶がある。それから30分ぐらい涼んでからまた書き出した。それからの時間はあっという間だった。まるでゲームに集中している時のような感じだった。そしてこのような日は数日続いた。ある日、僕はおじいちゃんと小さな喧嘩のようなものをしてしまった。僕が習字をめんどうくさくなり、喧嘩になってしまった。おじいちゃんは怒りながらも僕に教えてくれた。とめやはね、はらいなどの書き方を。

「ここはもっと力強く。」

「ここはやさしく。」

「ここはもっとバランスよく。」

「名前は大きさを気をつけろ。」

おじいちゃんが教えてくれる内に喧嘩は直っていた。

夏休みが終わる頃、清書を書こうか悩んでいた。もう少し練習するかどうかを。そこにおじいちゃんは、

「一遍やってみろ。」

と言った。僕は1枚清書の紙に書いた。結構よく出来た。しかし僕はなんだか違うと思い、もう数日練習をした。そして夏休み終了の3日ぐらい前に完璧だと思った僕は本番用の紙に書いた。その中でどれが一番上手か家族で決めてもらい、それを出した。

夏休みが終わり、書いた習字を出した。僕はどのような結果なのかわくわくしてその日を待った。そしてその日が来た。

発表は教室であった。賞を取った人が3人いると告げられ、2人目までが女子だった。3人目もどうせ女子だろうと思ったが、僕だった。とてもうれしかったことを今も覚えている。何の字を書いたかはもう忘れてしまったが、おじいちゃんと頑張った時間は今も忘れていない。

## 入選

# 母の手のありがたさ

東広島市立中央中学校

3年 川野 稔 眞

母の手は忙しい。家族のためによく働く。

僕は母の手にお世話になっている。産まれたときはたくさん抱っこしてもらったものだ。幼いときはよく泣き、歩くのも嫌がっていたらしく、お腹の中に妹がいるときも、遠慮なく抱っこしてもらっていたそうだ。全く覚えていないが、おむつもかえてもらっていたし、寝るときは、とんとんと背中をたたいてもらったり、手をつないで歩いたり、ご飯も食べさせてもらっていたようだ。

僕は幼いときからアトピー性皮膚炎という病気で長い付き合いだ。飲み薬、塗り薬は毎日のことなので母が準備をしてくれる。塗るのも大変で、届かないところは母の手の登場だ。届かない場所が痒くて搔いてくれるのも母の手だ、かなりお世話になっている。

それなのに僕は、そこじゃない、もっと強く搔いてと怒ることがあり、母と喧嘩になる。でもどんなに喧嘩をしても、母の手は僕のお世話をしてくれる。

母の手は僕のお世話をしながら、他にもたくさんの仕事を持っている。いわゆる、家族のための手でもある。妹のお世話をする手、ご飯を作る手、掃除をする手、家族のために大忙しだ。休みの日も朝昼晩のご飯づくり、休みの日ぐらい何もしたくないな〜と母は言う。僕の勉強のほうが大変だ！と言いたくなる。

家族の手は、怒る手にも早変わりする。イライラしているのか、どうやら怒っている音がする。バン、ドン！と音が鳴る。甘い手にも早変わり、とにかく優しい母はすぐにお菓子を買ってくる。みんなが喜ぶと思って！その手は怒る手から大変身、家族の喜ぶ甘いお菓子の手に変わる。

平日は仕事に行って、母の手はフル稼働。パソコンのブラインドタッチはすごい速さだ、電卓を押す速さもすごい、そして色々な書類を指サックというものをつけてめくるらしい。母の手はどんどん仕事をこなしていく、電話もとるらしい、ある日はお金を数えることもあるらしい。

こうして疲れている母の手は、家に帰ってくると家族のために使う手に早変わりだ。

母の手は休むことなく一日中仕事をしている。

ある日、背中を搔いてほしいと母にお願いした、手が痛いから無理と言われた。よく見てみると母の手は傷だらけだ、主婦湿疹というらしい。指のいたるところが切れていて血が出ている、皮膚はカサカサしていて痛そうだ。バンドエイドをつけている。

「今日は俺が食器を洗ってあげるよ」「え、ほんと？」母は喜んでいるようだ。僕は母のゴム手袋をつけて洗ってみた。ゴワゴワして洗いつらい、しかも時間がかかる。母の気持ちが少しわかったような気がした。

ありがたいことに、僕は毎日母の手と触れ合っている。いつまで続くか分からないが、暖かなその感触をずっと覚えていたいと思った。僕と母が仲良しなのは、いつもそのぬくもりを受け取っているからかもしれない。喧嘩してもすぐに仲直りできるのは、その手にお世話になっているから素直にごめんねと言えるのかもしれない。

母には本当に感謝をしなければならない。

ありがとう。



入選

## 家族で行くから思い出になる場所

広島市立江波中学校

3年 <sup>たか</sup>高 <sup>の</sup>野 <sup>なつ</sup>夏 <sup>み</sup>海

私には、家族全員で数か月に1度島根県の松江市に行く楽しみがある。春は下道を通りながら桜の木を眺め、夏は島根半島の海で泳ぐ。秋は山々の紅葉を写真に収め、冬は吹雪の中雪合戦をする。そんな自然豊かな島根が、私は大好きだ。

特に好きなのは、夏に家族で行くことだ。全員で早朝5時に起き、出発する。夏にぴったりなBGMを流しながら兄と歌う。私たちの歌声は、朝の中国山地に響き、旅のすてきなスタートダッシュになる。午前9時、松江市に着くとまずは、祖父母の墓参りをする。雑草を抜き、水をかけて、「遊びに来たよ」と伝える。島根は母の出身地なので、「ここ昔からあるお店なんよ。」とか、川を指さして、「小さい時、地域の人とここの川そうじをして虫を見つけるのが楽しかった。」と楽しそうに話す。私はその時の母の顔が大好きだ。昼になると町には人も増え、交通量も増える。私たちの車は狭い道を通ってゆく。そのうち、木々のあいだから海が見えてくる。日本海だ。太陽が照り、海は輝いている。私は、うきわを持って海に入る。雑草抜きや、車内の暑さでかいた汗は海のきれいな海水に洗われる。兄と私が泳いでいる姿をうれしそうに父は写真に撮っていた。その後、私は疲れて砂浜にもどると母は毎年、日本海を見てこう言う。

「日本海はきれいでしょ。だから私はこの海が大好きなんよ。だけん、夏海の名前はこう書くんよ。」私は毎年、この言葉を聞いて両親からの愛情を感じると同時に、自分の名前をほこらしく思っている。夕方になると私たちの車は大通りを抜け、高速道路へ入る。私はこの時間が嫌いだ。なぜなら、大好きな島根がだんだん遠くなるから。県境が見えると、心の中で「またね。」とつぶやく。

私がここまで島根が好きになったのには、第一に「家族」という存在が大きいと思う。家族で行くからこそ思い出に残り、また来たいと思えるのだと思う。だから私は、家族で島根に行くことが楽しみである。

## 入選

# うちはうるさい

東広島市立松賀中学校

3年 戸 田 一 颯

「もうしらんっ！」

これは妹と僕のいつもの捨てゼリフだ。僕には小学6年生と年長の2人の妹がいる。とても口が達者で、何かとすぐケンカになり、最後はこのセリフで終わる。

うちは、うるさい。いつもケンカをしたり、騒いだりしている。僕は、そのせいで勉強ができない、テレビの音が聞こえない、などと嫌な思いをしたことが何度もある。一人っ子の家がうらやましく、妹がいなかったら静かになっていいのにと考えていた。しかし、そんな僕の日常にも、ありがたさを感じたことがある。

2年前、僕は足の病気で手術をするため、1週間ほど入院した。車で1時間はかかる距離を、両親は毎日面会をするために来てくれた。僕は、毎晩個室に一人。静かで快適だと、最初は思っていた。

しかし、いつものあの騒がしさが急になくなってしまうと、それはそれで寂しい。いつもの日常が、いつのまにか恋しくなっていた。

うるさい、嫌だと思っていた普通の日常。僕の家は、その賑やかさがあるからこそ、とても幸せなものなんだと、改めて気づいた。

今、社会問題にもなっている孤食と個食。家族が不在で一緒に食事をする機会が減り、一人で食べる孤食や、複数で食べていても、食べているものが各自で異なる個食。これらは、家族と触れ合う大事な時間が減っているように思う。

現在、地域の取り組みとして、子どもたちに食事を提供する「こども食堂」という、コミュニティがある。人が多く集まる場所ができたことで地域住民のコミュニケーションの場としても機能しているらしい。やはり、一人で食べるよりも、誰かと一緒に食べる方がよりおいしく、また楽しく感じられるだろう。

我が家は、食事のとき今日の出来事を競い合うように話している。部活動が終わり、今日のメニューは何だろうと、楽しみにしながら帰宅する。これらのことも、今の日本では決してあたりまえのことではないのかもしれない。

いつか僕も家族をつくるだろう。時にはケンカしながらも、相手を思いやれるような、温かい家庭を築きたい。

うちは、うるさい。でも、とても幸せだ。

## 入選

# 僕は妹のガードマン

東広島市立西条中学校

3年 橋本 大雅

僕には2歳下の妹がいる。妹が生まれた日から僕は妹のガードマン。こんな事を人に話すときとおかしな奴と言われるに違いない。でも、今まで妹をずっと守って生きてきた。

幼稚園年長になった時、妹が入園してきた。今までずっと昼間、母と二人で家で過ごしていた妹。当たり前のように知らない環境で泣いた。普通なら「お母さんに会いたい。」と泣くところを、僕の妹はなぜか

「大雅!!大雅に会いたい。」

と言って大泣きし、担任の先生はおろか、園長先生まで困らせた。結局、年長の僕のクラスで一緒にお弁当を食べたり、歌をうたったりして過ごした。入園して約1か月ずっとだった。僕はうれしような、はずかしいようなそんな気持ちでいた。それくらい妹は僕の事を頼りにしてくれている。幼いころから母も「よかったね。優しいお兄ちゃんがいて。守ってくれて安心だね!」と妹と話していることをよく耳にしていた。そして僕も『妹を守るのは僕』という使命のもと育ってきた。

幼稚園の時も、小学校に入学してからも塾も妹は困ったことがあれば僕を頼ってきた。熊が近くに出ることからと熊よけの鈴を学校から配られ、妹がどこかへ落とし失くした時も僕はこっそり妹へ僕の鈴をあげた。結局、僕が母から怒られたが、これも妹を守るため。ガードマンの役目だ。

月日は流れ、僕は中学生になった。バスケットがしたいため、校区内の中学校へは行かず、西条中学校へと入学した。次は妹が入学の番。校区内の中学校へ行くため、別々の学校だと思っていたのだが…。

「大雅と同じ中学校にしたんよ。」

と笑顔で報告してくれた。正直僕は、また一緒か…と思った。嬉しそうに話す妹を見て、自分で決めた事だから応援することにした。

妹が中学校に入学する1か月前のこと。最近元気がないなと妹を見るたびに思っていた。表情も暗くおしゃべりなのに、あまり話をしない。両親も心配していた。僕は妹に聞いてみた。どうしたのって。妹はポツリポツリと話しはじめた。自分で行く中学校を決めたのに、仲良しの友達とはなればなれになるのが寂しいこと。中学校が楽しいか、友達がすぐにできるか、一人ぼっちにならないか不安なこと。同じ小学校からは誰一人西条中学校に入学しないことがすごく不安に思っていたようだ。その気持ちは僕にも分かる。きっと両親より僕の方が妹の気持ちをわかってやれる。…ガードマンの出勤だ。

「西条中学校は先生も優しく、楽しい行事もたくさんあって、そこで友達もすぐにできるよ。もし一人ぼっちがいやなら俺のクラスに来たらいいよ。」

と。それから妹は表情も明るくなり、元気に小学校を卒業した。

妹が楽しく中学校生活を送れるか、そのころ僕の方が不安になってきた。しかし、僕が悩んでも何も関係ないと母に言われ、僕も明るくふるまうことにした。

4月、妹が西条中学校へ入学した。ガードマンは益々気をぬけなくなった。妹が一人でさみしくないか時々こっそり見守ることにした。「あー今日も一人だ」思うことも多々あったが、ある日、体育館ですれ違う時には、楽しそうに友達と話しながら歩く妹を見ることができた。自分にも友達ができたようで嬉しかった。家に帰ってその話を母に報告したらとても喜んでいて。妹に話をすると、「ストーカーみたいにあまりジロジロみないで。」

と言われた。とてもショックだった。自分はガードマンのつもりだったのに。その話を聞いていた母が笑いながら一言。

「ガードマン今までお疲れ様でした。」

社長から定年退職をした気分を早々に味わった…。

特選

広島市立古田台小学校

5年 <sup>みや</sup>宮 <sup>かわ</sup>川 <sup>あゆ</sup>歩 <sup>か</sup>佳



家族で山道をサイクリング！楽しいな！

入選

東広島市立高屋西小学校

1年 加<sup>か</sup>本<sup>もと</sup>紗<sup>さ</sup>悠<sup>ゆ</sup>



かぞくでキャンプへいってはおびたのしかったよ

広島市立翠町小学校

2年 兼<sup>かね</sup>本<sup>もと</sup>瑚<sup>こ</sup>々<sup>こ</sup>羽<sup>は</sup>



パパと妹といっしょにしばふにころがったよ

東広島市立龍王小学校

2年 中<sup>なか</sup>本<sup>もと</sup>春<sup>はる</sup>雄<sup>お</sup>



おじいちゃんとへやの中でキャッチボール

東広島市立西条小学校

4年 川<sup>かわ</sup>石<sup>いし</sup>明<sup>さや</sup>果<sup>か</sup>



うちのきゅうりはおいしいぞ!!



ずっと抱っこしていた11年差のいとこ。

東広島市立高屋西小学校  
6年 釜<sup>かま</sup>充<sup>みつ</sup>樹<sup>き</sup>

## 令和3年度「家庭の日」作文・図画募集要綱

- 1 趣 旨 健全で明るい家庭は、家族みんなで話し合い、家族みんなで楽しみ合い、家族みんなで力を出し合うことによって築かれます。  
青少年育成広島県民会議では、毎月第3日曜日を「家庭の日」として定め、明るい家庭づくりの運動を展開しています。  
この運動が広く地域に浸透し、多くの家庭で実践されることを願って、小・中学生が、家族や家庭について日頃思っていることや感じていること、家族と一緒に体験したことなどを作文や図画に表現した作品を募集します。
- 2 対 象 者 県内に在住の小・中学生
- 3 主 催 公益社団法人青少年育成広島県民会議
- 4 後 援 広島県・広島県教育委員会
- 5 協 賛 広島ロータリークラブ、広島南ロータリークラブ、広島東ロータリークラブ、広島東南ロータリークラブ、広島北ロータリークラブ、広島西ロータリークラブ、広島中央ロータリークラブ、広島西南ロータリークラブ、広島陵北ロータリークラブ、広島安芸ロータリークラブ、広島城南ロータリークラブ、広島廿日市ロータリークラブ、広島安佐ロータリークラブ、(敬称略、順不同)
- 6 応募方法
- 作 文
- ・400字詰め原稿用紙3枚程度とします。
  - ・縦書きとし、はっきりと書いてください。
  - ・題の次に、学校名・学年・名前(ふりがな)を記入してください。
- 図 画
- ・作品は4つ切りの画用紙とします。
  - ・画材は自由です。(クレパス、水彩絵の具等)
  - ・ポスターではないため、タイトルやキャッチフレーズは書かないでください。
  - ・裏面の「図画応募用紙」に記載し、作品の裏に貼付してください。
  - ・作品のコメントも忘れずに記載してください。
- 注意事項
- ・一人1点に限ります。
  - ・本人の作品で未発表のものに限ります。
  - ・提出された作品は、返却しません。
  - ・企業名や商号の入った作品は対象外となります。
  - ・作成指導に当たっては、作品に直接手を加えないようにお願いします。
  - ・図画は送付時に丸めないでください。
- 7 応 募 数 作品は応募校で事前審査し、作文・図画それぞれ各学年5名以内で応募してください。なお、作品を書いた児童・生徒全員に参加賞を贈りますので、作品の応募総数を明記してください。
- 8 応募締切 令和3年9月1日(水)必着
- 9 送 付 先 〒730-8511 広島市中区基町10番52号 広島県環境県民局県民活動課内  
(公社)青少年育成広島県民会議 電話 082-513-2742 / FAX 082-511-2173
- 10 審査方法
- (1) 予備審査は作文のみとし、関係行政機関の職員、(公社)青少年育成県民会議職員が行います。
  - (2) 事前審査は作文のみとし、学識経験者、関係行政機関の職員、(公社)青少年育成県民会議職員によって構成する審査員が行います。
  - (3) 作文・図画の審査会は、学識経験者、関係行政機関の職員、(公社)青少年育成県民会議職員によって構成する審査員が行います。
- 11 表 彰 特選者は、青少年育成県民運動推進大会において、広島県知事賞の賞状及び賞品を授与します。入選者は、当県民会議会長賞の賞状及び記念品を後日送付します。
- 12 副 賞 特選者は、1万円の図書券を贈ります。また、応募者全員に参加賞を送付しますので、必ず応募者の控えをお持ちください。
- 13 そ の 他 入賞作品は、当県民会議発行の入賞作品集や、機関紙「せとのあさ」に掲載するなど広く活用させていただきます。

## 審査員及び審査要領

### ●作文の部審査員

宇佐川秀輝 (公社) 青少年育成広島県民会議常務理事  
石田 睦子 三次市教育委員会社会教育委員  
角濱 慶司 三次市立十日市中学校長  
豊原三紀男 広島県環境県民局県民活動課長  
藤本 哲平 広島県教育委員会義務教育指導課指導主事

### ●作文の部審査要領

#### 1 選定方法

- (1) 特選 (県知事賞)・・・3 作品
- (2) 入選 (会長賞)・・・上位 20 作品程度を選定する。

#### 2 審査の方法

##### (1) 事前審査

- ・小学校低・高学年, 中学生の部をとおして, 「家庭の日」の理解度, 感銘度, 論題にそつた論旨, 論点の整理, 表現力, 文の構成等を審査する。
- ・評点は 10 段階評価とする。
- ・特選を 10 点満点とし, 小・中学生をとおして, 特選 3 作品を選定する。
- ・入選は上位 20 作品程度を選定する。
- ・学年ごとに平均して選定しなくても良い。

##### (2) 審査会

事前審査の結果をもとに協議し, 相互調整して特選, 入選を選定する。

### ●図画の部審査員

濱田 昭法 元広島県教育研究会美術部会会長・元広島市教育研究会美術部会会長  
宇佐川秀輝 (公社) 青少年育成広島県民会議常務理事  
住田 佳子 広島県教育委員会義務教育指導課指導主事  
豊原三紀男 広島県環境県民局県民活動課長  
藤崎 綾 広島県立美術館主任学芸員

### ●図画の部審査要領

#### 1 選定方法

- (1) 特選 (県知事賞)・・・1 作品
- (2) 入選 (会長賞)・・・5 作品

#### 2 審査の方法

- (1) 作品ごとに, 表現力, 構成力, 家庭の日の理解度等を審査する。
- (2) 候補作品を学年ごとに並べ, 審査員は 1 学年ごとに, 5 点ぐらい選定する。なお, 各審査員同士が同一作品を選定しても良い。
- (3) 候補作品は必ずしも各学年から均等に選ばなくてもよいが, できれば小学校 (低・中・高学年), 中学校のバランスを考慮する。
- (4) 審査員が全学年の作品を見た後, (2)で選んだ作品を全部並べ, その中から特選 1 点, 入選 5 点を協議により選定する。

## 令和3年度「家庭の日」に関する作文・図画応募校一覧表

小学校の部		作 文								図 画								応募 総数	参加 人数
番号	学校名	1年	2年	3年	4年	5年	6年	計	作・ 参加 人数	1年	2年	3年	4年	5年	6年	計	図・ 参加 人数		
1	三原市立小泉小学校									1						1	1	1	1
2	竹原市立大乘小学校	1	3	1	3	5	4	17	20									17	20
3	廿日市市立平良小学校			1	1			2	2	3	3	2			1	9	9	11	11
4	東広島市立龍王小学校					1	2	3	3	5	4	5	3	1	1	19	38	22	41
5	広島市立翠町小学校			3				3	3	3	3	4	1			11	11	14	14
6	広島市立中野東小学校									2	2	1	2			7	7	7	7
7	呉市立宮原小学校									2	2			1		5	5	5	5
8	呉市立坪内小学校					2		2	2	5	1		1			7	9	9	11
9	東広島市立高屋西小学校									5	1	2	4		1	13	26	13	26
10	東広島市立小谷小学校	2	1	3	1		1	8	8									8	8
11	広島市立千田小学校		1				1	2	2									2	2
12	広島市立楠那小学校	1						1	1	1				1		2	2	3	3
13	竹原市立竹原西小学校	4	5	5	5	5	5	29	131	4	2	1	1	1	1	10	10	39	141
14	三次市立酒河小学校		1					1	1		3		1			4	4	5	5
15	福山市立春日小学校			1				1	1	2	1	1				4	4	5	5
16	尾道市立長江小学校											1				1	1	1	1
17	広島市立亀山小学校	1						1	1	2	1	2				5	5	6	6
18	呉市立昭和北小学校					1		1	1	1		2	1	1	1	6	6	7	7
19	福山市立御幸小学校		1					1	1	1			1	3		5	5	6	6
20	広島市立大町小学校		3				1	4	4	5	5	3	3	2	1	19	22	23	26
21	広島市立東浄小学校									5	2		1			8	10	8	10
22	広島市立緑井小学校	1	1	2		1	2	7	7									7	7
23	広島市立古田台小学校											1	1	1	1	4	4	4	4
24	広島市立己斐東小学校									3	2		1			6	6	6	6
25	東広島市立寺西小学校		5	5	5	5	5	25	83									25	83
26	広島市立荒神町小学校										1	1				2	2	2	2
27	呉市立安登小学校										1			1		2	2	2	2
28	三次市立みらさか小学校			2	1		1	4	10	3	1					4	6	8	16
29	福山市立西小学校									1			1			2	2	2	2
30	呉市立川尻小学校					5	1	6	13									6	13
31	三原市立糸崎小学校	5	4	5				14	79									14	79
32	広島市立基町小学校					2		2	2	5	2		1			8	8	10	10
33	広島市立戸坂小学校		1		1	1	3	6	6	5	5	5	1	3		19	34	25	40
34	広島市立大河小学校					1		1	1	3				1		4	4	5	5
35	東広島市立板城西小学校										3	1				4	4	4	4
36	東広島市立西条小学校	5	4	5	3	5	5	27	91	5	4	3	4	5	1	22	31	49	122
37	福山市立駅家小学校									1	2					3	3	3	3
38	庄原市立比和小学校					1		1	1									1	1
39	呉市立吉浦小学校			1				1	1									1	1
40	広島市立口田東小学校			1	1		2	4	4	5	5	5		5	3	23	30	27	34
41	広島県立広島南特別支援学校											1				1	1	1	1
	合 計	20	30	35	21	35	33	174	479	78	56	39	30	26	11	240	312	414	791

## 令和3年度「家庭の日」に関する作文・図画応募校一覧表

中学校の部		作 文					図 画					応募 総数	参加 人数
番号	学校名	1年	2年	3年	計	作・ 参加 人数	1年	2年	3年	計	図・ 参加 人数		
1	広島県立三次中学校	5			5	80						5	80
2	広島市立幟町中学校	5	5	5	15	41						15	41
3	呉市立蒲刈中学校		1		1	1						1	1
4	廿日市市立宮島中学校							1		1	1	1	1
5	呉市立白岳中学校	1			1	1						1	1
6	福山市立駅家南中学校	5			5	23						5	23
7	三原市立第五中学校	5	2	5	12	51						12	51
8	福山市立新市中央中学校	5	5	5	15	89						15	89
9	広島市立江波中学校		3	2	5	56						5	56
10	三原市立第四中学校	1	1	2	4	44						4	44
11	三原市立宮浦中学校	5	5	4	14	59						14	59
12	広島市立砂谷中学校	3			3	18						3	18
13	広島市立五日市中学校	3	5	1	9	44						9	44
14	広島市立戸山中学校	4	4	5	13	14						13	14
15	呉市立昭路北中学校	5	5	5	15	49						15	49
16	呉市立横路中学校	5	5		10	20						10	20
17	尾道市立美木中学校		1	2	3	39						3	39
18	三次市立塩町中学校		2		2	4						2	4
19	庄原市立庄原中学校	5			5	124						5	124
20	廿日市市立廿日市中学校	5	3		8	21						8	21
21	東広島市立黒瀬中学校	5	4	3	12	13						12	13
22	広島市立宇品中学校		5	5	10	57						10	57
23	広島市立井口台中学校	5			5	65						5	65
24	広島市立安西中学校			5	5	5						5	5
25	呉市立音戸中学校	1		1	2	16						2	16
26	呉市立天応中学校			1	1	6						1	6
27	竹原市立竹原中学校	2	3	2	7	50						7	50
28	福山市立内海中学校	1			1	1						1	1
29	東広島市立西条中学校	3	5	5	13	49						13	49
30	東広島市立松賀中学校	1	1	5	7	20						7	20
31	東広島市立中央中学校	5	3	3	11	113						11	113
32	海田町立海田中学校	5	3	1	9	44						9	44
33	安芸太田町立加計中学校	4	2	5	11	13						11	13
34	広島市立五月が丘中学校	2	5		7	9						7	9
35	呉市立両城小学校	3	5	2	10	11						10	11
	合 計	99	83	74	256	1250				1	1	257	1251

— 発 行 —

公益社団法人 青少年育成広島県民会議

〒730-8511 広島市中区基町10番52号

広島県環境県民局県民活動課内

TEL 082-513-2742

FAX 082-511-2173

URL : <http://www.hiro-payd.or.jp/>





# 元気な挨拶は 笑顔の始まり

笑顔をつなげよう

おはよう

こんにちは

さようなら

ありがとう



広島県の青少年のマスコット  
ゆっぴー